

愛媛県における高等女学校の洋装制服について

松井 寿

はじめに

日本において、女性の服装が和装から洋装へと移りかわる上で、その推進となった要因は複数挙げられる。つまり大正中期の生活改善運動⁽¹⁾や一九二三（大正一二）年の関東大震災による生活の変化、女性の社会進出による働きやすい衣服の要望、そして女学生の洋装の定着である。とくに一九二〇年代からの洋装制服採用の流れや授業における洋裁の実施が洋装推進へと大きく貢献したと従来から指摘⁽²⁾されている。

一方、洋装制服を用いる女学校を卒業してのち、華やかな和服へと回歸する女性が少なくない事実も、当時の雑誌記事からうかがえる。卒業後に女性が和服を望む傾向について、今和次郎は次のような意見を述べ、和服の有害さを嘆いている。

「服装を通しての悩みというものの処置に経験のない女学校をでたての人は、だれもかれも、きれいな和服を着たがる。今日女学校の制服は単純な洋服だから、それへのコントラストへといくのである。和服がからだに有害であるということは、制服時代の女学校で十分教わっているはずなのに、その有害な和服を着たがるのである。これで見ると制服時代に習ったことは、世の中とまるつきり関係がないかの感がある。」（一九三八年六月二四日）⁽³⁾

女学校卒業後の衣生活において、和洋装を選択する要因として、洋装制服はどれほどの影響力を有していたのかを把握するためには女学生の衣生活を分析することが必要であると考えた。そこで愛媛県の高女学校（以下「高女」と称する）の卒業生へアンケートを行うことにより、洋装制服を中心とした高女生の実態に迫ることとする。具体的には、高女入学・学校生活・制服・洋服・

卒業後の生活の五項目に分け、問いを設けた。高女卒業生の高齢化が進む現在では、各学校各年代を網羅した上でサンプルを無作為に抽出することは困難であったが、各高女の同窓会および卒業生による紹介によってデータを収集した。そのため表一の通り、年代や高女ごとにばらついた集計となり、このアンケートは「愛媛県内の高女の縮図」とはなりえなかったが、当時の女学生の証言を集積することができた。⁽⁴⁾

① 調査の概要 対象と方法

一九三四（昭和九）年当時、愛媛県内には一六校の高女が存在した。⁽⁵⁾ 其中から、同窓会総会時期と調査期間の関係などの理由により、九校の高等学校同窓会および卒業生へ調査の趣旨を説明し、ご協力をいただいた。

○同窓会総会において卒業生にアンケート調査への協力を依頼し、了承していただけた方にアンケートを配布、後日回答した調査票を返送してもらった。各高女関係者およびアンケート回答者より、他の卒業生を紹介してもらい、アンケート調査への協力を電話にて依頼し、了承していただけた方へ調査票を郵送した。

② 主な調査期間 二〇〇三年六月～二〇〇四年五月

二〇〇三年六月二一日（土） 城北高女同窓会

二〇〇三年六月二八日（土） 松山高女同窓会

二〇〇三年六月二八日（土） 八幡浜高女同窓会

二〇〇三年七月五日（土） 今治高女同窓会

二〇〇三年九月一四日（日） 大洲高女同窓会

二〇〇三年十一月三日（月） 松山東雲高女クローバーデイ

二〇〇三年十一月二九日（土） 西条高女同窓会

表1 学校・年次別有効アンケート回答数

卒業年	西条	丹原	今治	松山	城北	東雲	大洲	八幡浜	東宇和	計
1924(T13)	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
1925(T14)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
1926(T15)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
1927(S 2)	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
1928(S 3)	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
1929(S 4)	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
1930(S 5)	0	0	0	0	0	0	1	1	0	2
1931(S 6)	0	0	0	5	0	0	0	1	0	6
1932(S 7)	0	0	0	4	0	0	1	0	0	5
1933(S 8)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
1934(S 9)	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
1935(S10)	0	0	0	1	0	0	2	0	3	6
1936(S11)	0	0	0	4	0	1	1	2	0	8
1937(S12)	0	0	0	1	0	0	1	0	1	3
1938(S13)	0	0	0	2	0	0	1	2	0	5
1939(S14)	0	1	0	0	2	0	0	2	1	6
1940(S15)	0	0	1	0	0	0	1	0	1	3
1941(S16)	1	0	0	2	4	0	1	2	2	12
1942(S17)	0	0	0	3	0	0	0	5	1	9
1943(S18)	0	0	0	1	0	0	1	2	4	8
1944(S19)	0	0	0	0	4	0	1	1	6	12
1945(S20)	2	0	5	2	5	2	0	2	6	24
1946(S21)	1	0	0	0	4	0	1	2	8	16
1947(S22)	2	0	3	1	12	0	1	0	3	22
1948(S23)	0	0	1	13	5	0	3	5	4	31
1949(S24)～	0	0	5	3	0	0	0	0	0	8
計	6	1	15	44	37	3	18	27	40	191

二〇〇四年一月二月 東宇和高女
二〇〇四年五月 丹原高女

③回収状況

依頼数 三七八名

有効回答数 一九一名

回収率 五〇・五三%

なお、学校別・卒業年次別有効回答数は表一を参照いただきたい。アンケートの様式は最後に付表として添付する。

④調査結果

本稿においては、数値化が可能な設問の調査結果に重点を置いた。各設問において無回答および非回答は除外している。

年代別・各高女別に回答を分類し、各高女に関する沿革史も資料として用いた上で分析を行った。年代は五年ごとで区切っている。高女別では、西条高女・丹原高女・東雲高女の三校は、回収数が一桁にとどまったことから単独の結果を採ることは断念した。

一 高女入学

①入学試験について(複数回答)(表一・三・四)

愛媛県内では、明治時代末から大正時代初頭にかけて中等学校入学において激しい競争が行われており、入学難問題として新聞紙上をにぎわすこともあった。そのため大正初頭、「中マ小学校長連絡会議」の決議により、放課後に行う受験勉強といった準備教育が表面的には廃止された。個人的もしくは非公式な準備教育は依然行われていたが、大正中期になると準備教育も公然と復活することとなる。

一九二三(大正一二)年から一九三二(昭和七)年にかけての高女入学志願

者状況⁽⁸⁾は表二のとおりであるが、今回のアンケートによると、「高女入学の準備として五四％が試験勉強を経験している。そのうち、七一％が学校で、二一％が家で勉強を行っており、小学校で高女受験の指導が行われていた様子がうかがえる。

一九三九（昭和一四）年九月、文部次官通達により、教科に基づく試験が禁止される⁽⁹⁾。それをうけ、愛媛県では翌年より学科試験が廃止され、入学試験が口頭試問と身体検査などとなる。そのため、昭和一五年以降の入学生からは「三年前から試問だったせいか勉強した覚えはありません」といった回答が増加する。また「入学試験の勉強をした」とする回答者の中にも「競争中のことで学科試験はなかったので口頭試問の仕方とか面接の作法などを習った」（西条高女 昭和二〇年卒）と語る者も増え、「入学試験の勉強」の内容が変化していたことがわかる。

表 2 高等女学校の入学志願状況

	募集定員	志 願 者 数									
		T12	T13	T14	T15	S 2	S 3	S 4	S 5	S 6	S 7
西条高女	100	165	198	177	178	182	166	105	143	111	117
周桑高女	100	140	139	140	131	147	123	105	103	91	86
今治高女	200	340	365	383	333	323	346	280	275	240	210
松山高女	200	359	295	304	293	305	237	249	243	221	213
城北高女	150	302	223	212	250	212	232	185	190	175	207
大洲高女	100	138	111	126	104	105	107	102	85	88	86
八幡浜高女	100	120	103	135	127	136	121	103	122	90	100
東宇和高女	50	72	64	66	71	69	64	65	53	48	49

*昭和6年松山高女の募集定員は150に削減。昭和7年復元。

表 4 勉強方法

	学校で		家庭で		その他	
	実数	%	実数	%	実数	%
～1929	2	50.00	1	25.00	3	75.00
1930	7	63.63	4	36.36	1	9.10
1935	10	62.50	8	50.00	2	12.50
1940	21	84.00	10	40.00	3	1.20
1945～	30	71.43	9	21.43	4	9.52
合 計	70	71.43	21	21.43	13	13.27
今治高女	1	12.50	8	100.00	0	0.00
松山高女	11	47.83	13	56.52	5	21.74
城北高女	4	21.05	15	41.55	2	10.53
大洲高女	4	44.44	4	44.44	1	11.11
八幡浜高女	4	28.57	12	85.71	1	7.14
東宇和高女	8	47.06	12	70.59	1	5.88
合 計	32	35.56	64	71.11	10	11.11

表 3 入学試験の勉強

	有		無		不 明	
	実数	%	実数	%	実数	%
～1929	4	80.00	1	20.00	0	0.00
1930	11	78.57	3	21.43	0	0.00
1935	16	61.54	10	38.46	0	0.00
1940	25	59.52	16	38.10	1	2.38
1945～	43	44.33	47	48.45	7	7.22
合 計	99	53.80	77	41.85	8	4.35
今治高女	8	57.14	6	42.86	0	0.00
松山高女	23	53.49	16	37.21	4	9.30
城北高女	19	54.29	15	42.86	1	2.86
大洲高女	9	50.00	8	44.44	1	5.56
八幡浜高女	14	53.85	12	46.15	0	0.00
東宇和高女	18	47.37	18	47.37	2	5.26
合 計	91	52.30	75	43.10	8	4.60

②進学の意思(複数回答)(表五)

この設問の回答からは、有効回答者の六三%が「進学が当然」と考えており、ついで「親の勧め」が四七%、「教師の勧め」が一九%となっている。

学校別に見ると「親の勧め」の項目に関しては松山高女が六一%、城北高女が五七%と、三〇%台が多いその他の学校に比べると、高い数値となった。進学する際に、親の意見が強く反映されたことが推察されるが、これは松山近辺では高女進学の選択肢が複数存在した地域事情によるものである。一九三二(大正一二)年に城北高女が新設されて以降、県内唯一の五年制である松山高女に加え、済美高女、松山東雲高女と四校の高女が進学先として存在していた。

他に城北高女卒業生の回答には、セーラーの制服やプールを備えた設備、「女子師範学校に進学するには、四年制の女学校が有利であった」(昭和二六年卒)といった学校独自の特色に惹かれる場合や、母や姉妹など親族が通っていたという親しみ、「家の経済上四年制が適当と思われた」(昭和二二年卒)といった家庭の事情に由来する理由も目立った。松山近辺のように複数の選択肢がある地域の場合、学校の特徴や通学の距離、制服など、様々な面から検討したようである。

一方、郡部では「自宅より通学できる女学校は外になかった」(東宇和高女昭和一八年卒)、「今治地方では名門校とされていたので」(今治高女 昭和二〇年卒)、「当時県立高女は近くでは外になかったし昔はエリートだったのではと思う」(東宇和高女 昭和二一年卒)といった証言のように、選択の幅は極めて狭いものであるため、その高女への進学が当然のこととして考えられていた。

どの地域の高女生も、「松山では最高の女学校としてあがれていた。どうしても入学したかった」(松山高女 昭和五年卒)という証言のように、「憧れ」とともに入学し「誇り」を胸に学生生活を過ごしたことは共通している。

表5 進学動機

	進学が当然		反対を押して		親の勧め		教師の勧め		兄弟姉妹の勧め		その他	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
～1929	4	80.00	0	0.00	2	40.00	0	0.00	2	40.00	3	60.00
1930	5	35.71	0	0.00	9	64.29	5	35.71	0	0.00	6	42.86
1935	22	81.48	1	3.70	8	29.63	5	18.52	2	7.41	11	40.74
1940	30	68.18	1	2.27	18	40.91	10	22.72	2	4.55	20	45.45
1945～	63	62.38	0	0.00	52	51.49	17	16.83	10	9.91	49	48.51
合計	124	63.35	2	1.05	89	46.60	37	19.37	16	8.38	89	46.84
今治高女	11	73.33	0	0.00	4	26.67	2	13.33	2	13.33	7	46.67
松山高女	26	59.09	0	0.00	27	61.36	12	27.27	3	6.82	20	45.45
城北高女	21	56.76	1	2.70	21	56.76	9	24.32	5	13.51	25	67.57
大洲高女	10	55.56	0	0.00	7	38.89	4	22.22	1	5.56	6	33.33
八幡浜高女	22	81.48	0	0.00	9	33.33	2	7.41	2	7.41	9	33.33
東宇和高女	29	72.50	1	2.50	15	37.50	7	17.50	2	5.00	18	45.00
合計	119	65.75	2	1.10	83	45.86	36	19.89	15	8.29	85	46.96

表6 家事の授業で洋服の製作

	有		無		覚えていない	
	実数	%	実数	%	実数	%
～1929	3	60.00	2	40.00	0	0.00
1930	6	42.86	4	28.57	4	28.57
1935	16	59.26	7	25.93	4	14.81
1940	26	61.90	11	26.19	5	11.90
1945～	56	56.00	25	25.00	19	19.00
合計	107	56.91	49	26.06	32	17.21
今治高女	13	86.67	2	13.33	0	0.00
松山高女	22	50.00	11	25.00	11	25.00
城北高女	24	64.86	7	18.92	6	16.22
大洲高女	12	66.67	3	16.67	3	16.67
八幡浜高女	8	32.00	12	48.00	5	20.00
東宇和高女	23	58.97	10	25.64	6	15.38
合計	102	57.30	45	25.28	31	17.42

二 学校生活について

①家事(表六・七)

家事の授業の中で五七%の回答者が洋裁を記憶している。その教材についての設問(複数回答)では「子供服」が二九%、「下着」が二二%、「その他」が八一%となり、様々な衣服が教材として授業に採用されていたことがわかる。その他の内容として「新入生の夏の制服は出席番号の同じ人の服を縫ふ」(松山高女 昭和一〇年卒)といったように、自らの、もしくは新入生の夏服を製作する学校も見られた。年代によって異なるものの、他にも城北高女・大洲高女・東宇和高女の回答に散見できる。制服のほかにも「ミシンの使い方をならい下級生のモンペを作」(東宇和高女 昭和二〇年卒)つたり「体操用ブルマー」(八幡浜高女 昭和一四年卒)を作ったとの証言もある。洋裁では、生活に結びついた内容が高女生の記憶に強く残っていた。

表7 洋裁の教材内容

	ワイシャツ		子供服		下着		その他	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
～1929	0	0.00	1	33.33	2	66.67	2	66.67
1930	0	0.00	3	50.00	2	33.33	3	50.00
1935	0	0.00	6	37.50	3	18.75	12	75.00
1940	2	8.00	7	28.00	5	20.00	21	84.00
1945～	1	1.82	13	23.64	10	18.18	46	83.64
合計	3	2.86	30	28.57	22	20.95	84	80.77
今治高女	1	7.69	4	30.77	4	30.77	12	92.31
松山高女	1	4.55	5	22.73	2	9.09	17	77.27
城北高女	0	0.00	8	36.36	4	18.18	18	85.71
大洲高女	0	0.00	5	41.67	4	33.33	8	66.67
八幡浜高女	1	12.50	3	37.50	1	12.50	5	62.50
東宇和高女	0	0.00	3	8.70	4	17.39	20	86.96
合計	3	3.00	28	28.00	19	18.81	80	80.81

②国語(複数回答)(表八)

国語の授業において印象深い内容の筆頭は「書き取り」で六二%、続いて「読書」が五六%、「作文」が四八%と、読み書きのほかに、自分の考えを文章にし、表現力を磨く作文や読書への指導も取りいれられていた。

③方言・言葉遣い(表九・一〇・一一)

方言や言葉遣いの指導に関して印象に残っている回答者は二四%と少ない。その中で、学校別にみると、今治高女では五七%という高い率で卒業生の印象に残っている。この結果は、方言への指導という記憶よりも、国語教諭が行っていた方言研究によるところが大きいと思われる。一九三八(昭和一三)年か

表8 国語

	古文		漢文		書き取り		作文		読書		その他	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
～1929	0	0.00	0	0.00	4	100.00	4	100.00	2	50.00	1	25.00
1930	6	50.00	2	16.67	8	66.67	6	50.00	9	75.00	1	8.33
1935	6	23.08	2	7.69	19	73.08	12	46.15	17	65.38	4	15.38
1940	19	51.35	7	18.92	20	54.05	20	54.05	22	59.46	2	5.41
1945～	32	35.16	19	20.88	55	60.44	40	43.96	45	49.45	17	18.68
合計	63	37.06	30	17.65	106	62.35	82	48.24	95	55.88	25	14.71
今治高女	2	13.33	2	13.33	13	86.67	4	26.67	7	46.67	0	0.00
松山高女	21	51.22	4	9.76	24	58.54	23	56.10	24	58.54	7	17.07
城北高女	11	30.56	10	27.78	25	69.44	17	47.22	22	61.11	7	19.44
大洲高女	5	33.33	1	6.67	13	86.67	9	60.00	6	40.00	1	6.67
八幡浜高女	14	58.33	7	29.17	8	33.33	14	58.33	13	54.17	4	16.67
東宇和高女	9	30.00	6	20.00	16	53.33	10	33.33	17	56.67	3	10.00
合計	62	38.51	30	18.63	99	61.49	77	47.83	89	55.28	22	13.66

表10 高女時代に回答者自身が言葉遣いの注意を受けた経験

	ある		あった気がする		ない		覚えていない	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
～1929	1	20.00	0	0.00	2	40.00	4	40.00
1930	1	8.33	0	0.00	11	91.67	0	0.00
1935	0	0.00	1	3.85	20	76.92	5	19.23
1940	2	4.88	1	2.44	31	75.61	7	17.07
1945～	7	7.37	4	4.21	68	71.58	16	18.84
合計	11	6.15	6	3.35	132	73.58	30	16.76
今治高女	1	7.14	0	0.00	8	57.14	5	35.71
松山高女	3	7.32	2	4.88	30	73.17	6	14.63
城北高女	6	16.22	1	2.70	26	70.27	4	10.81
大洲高女	1	6.25	2	12.50	9	56.25	4	25.00
八幡浜高女	0	0.00	0	0.00	22	88.00	3	12.00
東宇和高女	0	0.00	1	2.70	29	78.38	7	18.92
合計	11	6.47	6	3.53	124	72.94	29	17.06

表9 方言・言葉遣いの指導に関する印象

	有		無	
	実数	%	実数	%
～1929	1	20.00	4	80.00
1930	4	28.57	10	71.43
1935	1	4.00	24	96.00
1940	6	15.38	33	84.62
1945～	31	32.63	64	67.37
合計	43	24.16	135	75.84
今治高女	8	57.14	6	42.86
松山高女	9	20.93	34	79.07
城北高女	14	40.00	21	60.00
大洲高女	4	23.53	13	76.47
八幡浜高女	4	17.39	19	82.61
東宇和高女	2	5.56	34	94.44
合計	41	24.40	127	75.60

表 12 礼儀作法や生活態度への指導

	有		無	
	実数	%	実数	%
～1929	5	100.00	0	0.00
1930	9	64.29	5	35.71
1935	19	76.00	6	24.00
1940	30	75.00	10	25.00
1945～	72	77.42	21	22.58
合計	135	76.27	42	23.73
今治高女	11	73.33	4	26.67
松山高女	33	82.50	7	17.50
城北高女	32	91.43	3	8.57
大洲高女	16	88.89	2	11.11
八幡浜高女	18	72.00	7	28.00
東宇和高女	18	51.43	17	48.57
合計	128	76.19	40	23.81

表 11 高女以前に言葉遣いの指導を受けた経験

	有		無	
	実数	%	実数	%
～1929	0	0.00	5	100.00
1930	2	14.29	12	85.71
1935	3	12.00	22	88.00
1940	9	21.43	33	78.57
1945～	21	21.43	77	78.57
合計	35	19.02	149	80.98
今治高女	4	30.77	9	69.23
松山高女	8	18.60	35	81.40
城北高女	8	22.22	28	77.78
大洲高女	2	12.50	14	87.50
八幡浜高女	4	14.81	23	85.19
東宇和高女	6	15.38	33	84.62
合計	32	18.39	142	81.61

表 13 スポーツの経験

	有		無		わからない	
	実数	%	実数	%	実数	%
～1929	4	80.00	1	20.00	0	0.00
1930	7	50.00	6	42.86	1	7.14
1935	20	76.92	6	23.08	0	0.00
1940	29	70.73	12	29.27	0	0.00
1945～	72	71.29	28	27.72	1	0.99
合計	132	70.59	53	28.34	2	1.07
今治高女	8	53.33	7	46.67	0	0.00
松山高女	22	51.16	20	46.51	1	2.33
城北高女	21	56.76	15	40.54	1	2.70
大洲高女	16	88.89	2	11.11	0	0.00
八幡浜高女	25	92.59	2	7.41	0	0.00
東宇和高女	31	83.78	6	16.22	0	0.00
合計	123	69.49	52	29.38	2	1.13

④礼儀作法や生活態度についての指導（表一二）
 七六%の回答者が礼儀作法や生活態度についての指導を記憶している。自由記述には「男子学生と交際は駄目、すぐ退学になりました」（八幡浜高女 昭和一九五〇（昭和二五）年にかけて国語教諭として在籍していた杉山正世¹¹⁾は、方言の研究に尽力し、その成果を著作として残している。そのため「国語の先生が方言の研究をされていていろいろと方言を聞かれました。杉山先生と申しますが本も出された様です」（今治高女 昭和二〇年卒）と生徒たちの記憶に残っている。
 また、回答者自身が方言や言葉遣いに関して注意を受けた記憶となると、「あつた気がする」を合わせても有効回答者のうち九%と一割にも満たない。高女以前に指導を受けた回答者は全体のうち一九%である。

表 14 スポーツの種類

	テニス		バレーボール		バスケット		水 泳		野 球		登 山		陸 上		ダンス		その他	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
～1929	2	50.00	2	50.00	0	0.00	2	50.00	0	0.00	2	50.00	1	25.00	2	50.00	2	50.00
1930	2	28.57	5	71.43	3	42.86	2	28.57	0	0.00	2	28.57	2	28.57	3	42.86	3	42.86
1935	8	38.10	14	66.67	6	28.57	3	14.29	0	0.00	2	9.52	3	14.29	6	28.57	6	28.57
1940	5	17.24	19	65.52	4	13.79	5	17.24	0	0.00	5	17.24	5	17.24	7	24.14	12	41.38
1945～	10	13.89	42	58.33	4	5.56	19	26.39	1	1.39	4	55.56	8	11.11	18	25.00	27	37.50
合 計	27	20.30	82	62.12	17	12.88	31	23.48	1	0.76	15	11.36	19	14.39	36	27.27	50	37.88
今治高女	0	0.00	4	50.00	1	12.50	1	12.50	0	0.00	0	0.00	0	0.00	1	12.50	3	37.50
松山高女	2	8.70	12	54.55	4	18.18	4	18.18	0	0.00	3	13.64	3	13.64	8	36.36	7	31.82
城北高女	8	38.10	10	47.62	2	9.52	14	66.67	0	0.00	3	14.29	5	23.81	7	33.33	3	14.29
大洲高女	5	31.25	8	50.00	0	0.00	4	25.00	1	6.25	3	18.75	3	18.75	6	37.50	11	68.75
八幡浜高女	5	20.00	19	76.00	3	12.00	2	8.00	0	0.00	1	4.00	6	24.00	7	28.00	9	36.00
東宇和高女	3	9.68	23	74.19	2	6.45	4	12.90	0	0.00	3	9.68	1	3.23	4	12.90	16	51.61
合 計	23	18.55	76	61.79	12	9.76	29	23.58	1	0.81	13	10.57	18	14.63	33	26.83	49	39.84

表 15 スポーツの服装

	上 着		ブルマース		はちまき		帽子		ブラジャー		スリッパ		コンビネーション	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
～1929	3	75.00	1	25.00	2	50.00	1	25.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00
1930	4	27.14	1	14.29	5	71.43	1	14.29	1	14.29	2	28.57	0	0.00
1935	17	85.00	9	45.00	13	65.00	3	15.00	1	5.00	4	20.00	0	0.00
1940	23	79.31	27	93.10	23	79.31	1	3.45	2	6.90	3	10.34	0	0.00
1945～	46	63.89	67	93.06	60	83.33	0	0.00	5	6.94	6	8.33	1	1.39
合 計	93	70.45	105	79.55	103	78.03	6	4.55	9	6.82	15	11.36	1	0.76
今治高女	4	50.00	8	100.00	8	100.00	0	0.00	1	12.50	2	25.00	0	0.00
松山高女	14	63.64	14	63.64	17	77.27	1	4.55	3	13.64	2	9.09	0	0.00
城北高女	15	71.43	20	95.24	17	80.95	0	0.00	0	0.00	0	0.00	1	4.76
大洲高女	14	87.50	7	43.75	6	37.50	4	25.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00
八幡浜高女	20	80.00	21	84.00	21	84.00	0	0.00	1	4.00	6	24.00	0	0.00
東宇和高女	20	64.52	27	87.10	28	90.32	1	3.23	3	9.68	3	9.68	0	0.00
合 計	87	70.73	97	78.86	97	78.86	6	4.88	8	6.50	13	10.57	1	0.81

	シュミーズ		ウエスト		ズロース		ガードル		ストッキング		ガーター		その他	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
～1929	1	25.00	0	0.00	2	50.00	0	0.00	1	25.00	0	0.00	1	25.00
1930	5	71.43	1	14.29	7	100.00	0	0.00	6	85.71	1	14.29	2	28.57
1935	8	40.00	3	15.00	11	55.00	0	0.00	11	55.00	0	0.00	7	35.00
1940	12	41.38	1	3.45	13	44.83	0	0.00	4	13.79	1	3.45	1	3.45
1945～	37	51.39	3	4.17	38	52.78	0	0.00	0	0.00	0	0.00	5	6.94
合 計	63	47.73	8	6.06	71	53.78	0	0.00	22	16.67	2	1.52	16	12.12
今治高女	2	25.00	0	0.00	2	25.00	0	0.00	1	12.50	0	0.00	1	12.50
松山高女	8	36.36	3	13.64	12	54.55	0	0.00	6	27.27	1	4.55	5	22.73
城北高女	13	61.90	1	4.76	11	52.38	0	0.00	1	4.76	0	0.00	0	0.00
大洲高女	7	43.75	0	0.00	8	50.00	0	0.00	7	43.75	1	6.25	3	18.75
八幡浜高女	11	44.00	0	0.00	12	48.00	0	0.00	5	20.00	0	0.00	2	8.00
東宇和高女	15	18.39	3	9.68	19	61.29	0	0.00	1	3.23	0	0.00	4	12.90
合 計	56	45.53	7	5.69	64	52.03	0	0.00	21	17.07	2	1.63	15	12.20

和五年卒」といった男女交際禁止や映画館や飲食店などの利用禁止といった風紀に関する指導と教諭や上級生に対して挨拶など敬意を払うよう注意する礼儀作法に関するものが目立った。中には「S（女性同士の文通）」（八幡浜高女昭和二〇年卒）の禁止という女学校ならではの指導や「英語禁止（三年生より）例コップ↓湯呑」（今治高女 昭和二〇年卒）といった時代を反映した指導を強く記憶している回答も見られた。

⑤ スポーツ（複数回答）（表一三・一四・一五）

第一次世界大戦後、体力や体格の向上を目的として高女では体育に重点をおくようになってきた。一九一八（大正七年）、臨時教育会議において「女子教育ニ関シ改革ヲ施スヘキモノナキ若シコレアリトセハ其ノ要点及方法如何」についての答申が可決され、その具体案の一つとして「体力の増強に留意する」ことがあげられている。¹⁴⁾

今回のアンケートでは、回答者の七一%がスポーツの経験があると答えている。現在の国民体育大会の前身である明治神宮競技大会が一九二四（大正一三）年に行われるなど、一九二〇年代には全国の女学生の間でスポーツが盛況となった。そして一九二六（大正一五）年には「高等女学校施行規則中改正」が制定され、「施行規則」第一三号「体操、教練及遊戯」に「競技」が加えられた。¹⁵⁾この後、テニスや陸上競技、バレーボールなど勝敗をつけるスポーツが盛んになる。今回のアンケートにおいても、スポーツ経験者のうち六二%が「バレーボール」の経験を回答するなど、愛媛県内の高女でもその様子はうかがい知れる。一九三六（昭和一一）年になるとさらに「弓道・薙刀・水泳・スキー・スケート」が体育の項目として追加された。¹⁶⁾今回のアンケートでも昭和十五年卒業生以降、「その他」欄において「弓道」と「薙刀」の記述が見られる。

以上のように高女では体育教育を重視していた。この動きが洋装制服の導入につながったことは従来から指摘されており、活動性の要求される運動服として洋服を採用した後、制服として洋服を採用する高女が多く見られた。今回のアンケートでは運動する際の服として、「上着」「ブルマース」「はちま

き」を記憶する回答者がそれぞれ七割以上見られた。また運動服の下着として、四八%が「シュミーズ」、五四%が「ズロース」をあげている。シュミーズとスリップはいずれも袖無しでワンピース状になった下着である。もともと欧米では、シュミーズは肌に着けるものでスリップはドレスのすべりをよくする中間衣であったが、日本に導入された際に名称や機能が混同され、現在に至っている。¹⁸⁾今回のアンケートでは、選択肢の他に絵で回答してもらうことも可能であり、「コンビネーション」、「シュミーズ」、「ウエスト」の簡単な絵を例として示してある。アンケートによれば、愛媛県の女学生の間では「スリップ」より「シュミーズ」という呼称が主流であったようである。

⑥ 制服での県外への旅行（表一六）

修学旅行など制服で県外に赴くことにより、外部からの反応を受け、そのことによって制服の見直しを図った高女の例は全国的に見られる。例えば山口県

表 16 修学旅行

	有		無		覚えていない	
	実数	%	実数	%	実数	%
～1929	3	60.00	2	40.00	0	0.00
1930	9	64.29	5	35.71	0	0.00
1935	27	100.00	0	0.00	0	0.00
1940	23	54.76	18	42.86	1	2.38
1945～	29	30.21	65	67.71	2	2.08
合計	91	49.46	90	48.91	3	1.63
今治高女	4	28.57	10	71.43	0	0.00
松山高女	29	65.91	14	31.82	1	2.27
城北高女	11	30.56	24	66.67	1	2.78
大洲高女	13	76.47	4	23.53	0	0.00
八幡浜高女	11	40.74	16	59.26	0	0.00
東宇和高女	20	55.56	15	41.67	1	2.78
合計	88	50.57	83	47.70	3	1.72

立長府高等女学校では修学旅行先で生徒がバスガイドに間違えられるなどしたため、一九二七（昭和二）年セーラー服に改正された。⁽¹⁹⁾ 愛媛県でも西条高女では「修学旅行から帰ってきて私共は京都府立高女のグリーンの制服を真似て紫紺のモスで制服を作った」（西条高女 大正一三年卒）⁽²⁰⁾とあり、また宇和島高女でも「昭和三年の東京方面の修学旅行を機として大きく変更されいわゆるセーラー服となった」とある。

今回のアンケートでも、「自分では最高の制服と自負していた」（松山高女 昭和一一年卒）生徒がいる一方で、「制服が野暮つたくてセーラーであればいいのにと何回か思った」（東宇和高女 昭和一二年卒）、「他から批判はされませんでしたが、東京市内をまわるときやはり私達の服装は田舎じみているなあと思いました。」（大洲高女 昭和一三年卒）、「冬の制服はセーラー衿にベルトがあったのがおかしかった。リボンも小さい出来上がっているもの。田舎くさくもっさりしていた」（松山高女 昭和一八年卒）などの感想を抱いた生徒も多かった。いずれも県外では「〇〇高女の制服」といった意味が通用せず、制服を見て「学業優秀」や「質実剛健」といったその学校の校風が連想されることはない。そのような付加価値が除外された上で「どこかの女学校の制服」として主に美的評価を受けることが多い。制服は建前上、「美装」や「流行」という概念とは関係なく導入された衣服である。しかし各学校の理想とする教育や女性性が制服に反映されており、「学校のあり方」を視覚化した衣服である以上、外部の目に非常に敏感にならざるをえない。外部からの視線を受ける事によって「衣服」としての制服について省みる機会となったことがわかる。

なお修学旅行については全体の四九%が記憶している。戦時下に入ると修学旅行が中止される学校が出てきており、「残念であった」との記述がある。

三 制服

①制服の製作者（複数回答）（表一七）
 八五%の回答者が、制服の製作者として「洋服店」を挙げている。また、松

山高女で一%、東宇和高女で一四%が「夏服は一年入学時四年生の方が縫って下さいました」（東宇和高女 昭和一八年卒）という証言のように「先輩」による制服の製作を記憶している。

「入学したばかりの私たちを感奮させたのは、五年生が教材として縫ってくれる夏の制服でした。ある日の休み時間に未知の上級生が、『もしもよくできなくともごめんさいね。』と言いなから寸法を採りにきたその日から、待ちかねていた制服は、衣更えの日の前日、丹念に仕立て上げられて届きました。上級生の心のこもった制服は、紺のスカートに白いセーラーカラーの上衣で、青いリボンを胸に結びました。」（松山高女 昭和一七年卒）⁽²¹⁾

愛媛県内では、ほかに西条高女でも「新入生のスカートは四年生が教材として仕立て」（昭和四年卒）⁽²²⁾ていた。このように裁縫実習を兼ねて上級生が新入

表 17 制服の製作者

	自分自身		先輩		家族		洋服店		その他	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
～1929	0	0.00	0	0.00	1	25.00	3	75.00	0	0.00
1930	0	0.00	0	0.00	0	0.00	14	100.00	0	0.00
1935	1	4.35	1	4.35	1	4.35	22	95.65	0	0.00
1940	3	6.98	7	16.28	3	6.98	41	95.35	3	6.98
1945～	8	8.51	2	2.13	14	14.89	72	76.60	19	20.21
合計	12	6.74	10	5.62	19	10.67	152	85.39	22	12.36
今治高女	1	7.69	0	0.00	2	15.38	10	76.92	2	15.38
松山高女	1	2.63	4	10.53	1	2.63	32	84.21	7	18.42
城北高女	8	22.22	0	0.00	9	25.00	26	72.22	5	13.89
大洲高女	1	5.88	0	0.00	3	17.65	15	88.24	1	5.88
八幡浜高女	0	0.00	0	0.00	0	0.00	26	96.30	2	7.41
東宇和高女	1	2.70	5	13.51	3	8.11	34	91.89	5	13.51
合計	12	7.14	9	5.36	18	10.71	143	85.12	22	13.10

生の制服を製作する例は、福島県立会津高等女学校など全国に見受けられる。上級生に下級生の制服を製作させることにより、制服を通じた感謝や親愛の気持ちが培われることを学校側は意図していたと考えられる。制服製作に関してその他にも「制服ではないのですが入学後、二年生の方に（教材として）モンペを製作していただきました。掃除のとき着用していました。」（東宇和高女 昭和一九年卒）、「制服を特注する人が少数ですがありました。布地の上質の物で仕上っていました」（八幡浜高女 昭和二〇年卒）、「標準服は学校で習って自分で仕立てた。四年生の時 一週間くらい」（城北高女 昭和一九年卒）といった自由記述がみられた。

制服は、着用者が袖を通す前の段階から、「生地へのこだわり」や「自ら製作した苦勞」など、様々な思いが込められた衣服として考えられていた。

②制服の下着（複数回答）（表一八・一九）

制服の形状や着用法に関しては、各高女の沿革史などに記録が散見できるが、制服の下に身につける衣服に関しては、そのプライベートルな性質から実態をうかがい知ることは困難である。戦前の洋装化に伴う洋装下着の普及状況を探る目的から、今回のアンケートでは下着に関する問いを設けた。

その結果、制服の下着として、「ブローズ」は九一%、「シュミーズ」が八六%用いられており、いずれも高い普及率を示している。この二種類の下着は戦前の女学生にとって非常に身近であったことがわかる。また、「ストッキング」の回答が一九三九（昭和一四）年以前までは八〇〜九〇%の高い率を示している。物資の不足によって下駄履きになる戦時下までは、革靴に「ストッキング」がみだしなみとして重要な役割を果たしていたためである。例として、八幡浜高女では一九三九（昭和一四）年四月六日に「資源保護のため靴下

表 18 制服の下着

	ブラジャー		ウエスト		スリッパ		シュミーズ		コンビネーション		ブルマース	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
～ 1929	0	0.00	0	0.00	0	0.00	4	80.00	0	0.00	0	0.00
1930	0	0.00	2	14.29	7	50.00	12	85.71	1	7.14	1	7.14
1935	3	11.11	3	11.11	14	51.85	22	81.48	2	7.41	7	25.93
1940	2	45.45	4	9.09	19	43.18	38	86.36	0	0.00	2	4.55
1945～	12	12.24	5	5.10	28	28.57	86	87.76	0	0.00	12	12.24
合計	17	9.04	14	7.45	68	36.17	162	86.17	3	1.60	22	11.70
今治高女	2	13.33	0	0.00	3	20.00	13	86.67	0	0.00	2	13.33
松山高女	8	19.51	5	12.20	17	41.46	32	78.05	2	4.88	5	12.20
城北高女	1	2.70	2	5.41	12	32.43	33	89.19	0	0.00	3	8.11
大洲高女	0	0.00	1	5.56	3	16.67	17	94.44	0	0.00	0	0.00
八幡浜高女	0	0.00	0	0.00	12	44.44	23	85.19	0	0.00	7	25.93
東宇和高女	5	12.50	5	12.50	18	45.00	34	85.00	1	2.50	5	12.50
合計	16	8.99	13	7.30	65	36.52	152	85.39	3	1.69	22	12.36

	ブローズ		ストッキング		ガードル		ガーター		その他	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
～ 1929	4	80.00	4	80.00	0	0.00	0	0.00	1	20.00
1930	13	92.86	11	78.57	1	7.14	1	7.14	0	0.00
1935	27	100.00	25	92.59	1	3.70	2	7.41	3	11.11
1940	38	86.36	25	56.82	0	0.00	0	0.00	9	20.45
1945～	90	91.84	29	29.59	0	0.00	2	2.04	23	23.47
合計	172	91.49	94	50.00	2	1.06	5	2.66	36	19.15
今治高女	14	93.33	3	20.00	0	0.00	0	0.00	6	40.00
松山高女	38	92.68	26	63.41	1	2.44	1	2.44	7	17.07
城北高女	34	91.89	12	32.43	0	0.00	1	2.70	12	32.43
大洲高女	17	94.44	12	66.67	1	5.56	2	11.11	2	11.11
八幡浜高女	23	85.19	13	48.15	0	0.00	0	0.00	2	7.41
東宇和高女	36	90.00	20	50.00	0	0.00	1	2.50	6	15.00
合計	162	91.01	86	48.31	2	1.12	5	2.81	35	19.66

表 19 制服の下着の製作者

	自分自身		家族		店で購入		その他	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
～ 1929	0	0.00	0	0.00	1	100.00	0	0.00
1930	1	7.69	1	7.69	13	100.00	0	0.00
1935	2	9.52	4	19.05	21	100.00	1	4.76
1940	1	3.03	10	30.30	32	96.97	0	0.00
1945～	6	14.29	18	42.86	34	80.95	4	9.52
合 計	10	9.09	33	30.00	101	91.81	5	4.55
松山高女	1	4.35	1	4.35	23	100.00	0	0.00
城北高女	4	26.67	7	46.67	13	86.67	1	6.67
大洲高女	1	50.00	1	50.00	2	100.00	0	0.00
八幡浜高女	0	0.00	4	17.39	21	91.30	2	8.70
東宇和高女	4	10.00	18	45.00	35	87.50	2	5.00
合 計	10	9.71	31	30.10	94	91.26	5	4.85

* 今治高女のアンケートのみ設問無し

着用を止む⁽²⁵⁾といった記録が残っている。逆に「ブラジャー・「ウエスト」・「コンビネーション」・「ガードル」・「ガードル」などは、『主婦之友』や『婦人画報』といった婦人雑誌⁽²⁶⁾において洋装下着として紹介されているものの、当時の女生の間ではあまりなじみがなかったといえる。

次に、下着の入手方法として九二%が店舗で購入している。一九三〇年代に入ると、経済性とフィット感を重視し「銘々の体格に合はせて作ってはどうかせう。」と下着の手作りを勧める記事が婦人雑誌上に現れるものの、愛媛県では店舗で購入する高女生が多数を占めていた。

表 20 服装検査

	有		無		覚えていない	
	実数	%	実数	%	実数	%
～ 1929	3	60.00	1	20.00	1	20.00
1930	8	66.67	2	16.67	2	16.67
1935	18	66.67	6	22.22	3	11.11
1940	28	73.68	5	13.16	5	13.16
1945～	37	41.11	32	35.56	21	23.33
合 計	94	54.65	46	26.74	32	18.60
今治高女	8	57.14	4	28.57	2	14.29
松山高女	27	69.23	6	15.38	6	15.38
城北高女	18	56.25	6	18.75	8	25.00
大洲高女	9	50.00	7	38.89	2	11.11
八幡浜高女	13	52.00	9	36.00	3	12.00
東宇和高女	13	38.24	13	38.24	8	23.53
合 計	88	54.32	45	27.78	29	17.90

③ 服装検査 (表二〇)

実際に制服が着用された着こなしを探るため、服装検査について設問を作成した。これは制服という規則からの逸脱に注目することによって、当時の制服をめぐる規範がより鮮明に浮かびあがると考えた事による。アンケートでは、五五%の高女生が服装検査を記憶している。服装検査ではスカートの襷の数や丈、髪型や持物について、教師による検査が行われていた。例えば「白衿を清潔に」(今治高女 昭和二〇年卒)といった身だしなみの注意などである。そのほかに、「上着の裾をしぼる」ことの禁止(城北高女 昭和一四年卒)「スカート丈はスネより一〇cm以上、スカートひだは一六より多くしない」(東宇和高女 昭和一四年卒)といった記述からは女学生の間から生まれた制服の着こなしや流行について垣間見ることが出来る。例えば「其の頃は短いスカートに代って長いスカートがやはり始め、いつとはなしに制服もロングスカートに替っていた。」(宇和島高女 昭和一〇年卒)という証言からは洋服の流行が制服にも

取り入れられていたことがわかる。画一的な制服の中で小さな差異を競うような制服文化は、現代の女子中高生にも通じる点がある。

④ 洋装制服でのふるまい (表二一)

そして洋装制服の身なりと別に、そのふるまいについての指導は、わずか八%の卒業生にしか記憶に残っていない。内容は「姿勢を正しく 背筋をのばす」(東宇和高女 昭和二〇年卒)「足を広げて腰かけない ひざをくつつけなさい」(城北高女 昭和二二年卒)といった注意が主である。

表 21 洋装制服のふるまいについて注意された経験

	有		無		覚えていない	
	実数	%	実数	%	実数	%
～ 1929	0	0.00	2	66.67	1	33.33
1930	2	14.29	11	78.57	1	7.14
1935	2	8.00	19	76.00	4	16.00
1940	3	7.89	29	76.32	6	15.79
1945～	6	7.41	62	76.54	13	16.05
合 計	13	8.07	123	76.40	25	15.53
今 治 高 女	0	0.00	13	92.86	1	7.14
松 山 高 女	6	17.65	23	67.65	5	14.71
城 北 高 女	2	6.06	22	66.67	9	27.27
大 洲 高 女	0	0.00	14	87.50	2	12.50
八 幡 浜 高 女	3	13.04	18	78.26	2	8.70
東 宇 和 高 女	2	6.25	27	84.38	3	9.38
合 計	13	8.55	117	76.97	22	14.47

⑤ 学校外での制服の着用 (表二二)

この設問は、「〇〇高女の生徒」であることを視覚化する制服を、学校外でも着用したかどうかを探る目的で作成した。有効回答者のうち、六〇%が学校外での制服着用を記憶している。中でも西条高女・今治高女・松山高女・城北

表 22 学校外での制服着用経験

	有		無		覚えていない	
	実数	%	実数	%	実数	%
～ 1929	2	50.00	1	25.00	1	25.00
1930	4	30.77	7	53.85	2	15.38
1935	16	61.54	7	26.92	3	11.54
1940	30	71.43	3	7.14	9	21.43
1945～	57	59.38	21	21.88	18	18.75
合 計	109	60.22	39	21.55	33	18.23
今 治 高 女	10	66.67	3	20.00	2	13.33
松 山 高 女	26	61.90	8	19.05	8	19.05
城 北 高 女	18	50.00	11	30.56	7	19.44
大 洲 高 女	12	75.00	2	12.50	2	12.50
八 幡 浜 高 女	15	57.69	9	34.62	2	7.69
東 宇 和 高 女	21	56.76	5	13.51	11	29.73
合 計	102	59.30	38	22.09	32	18.60

高女・東雲高女・大洲高女・八幡浜高女では「外出は制服と決められていた。」(八幡浜高女 昭和一四卒)という証言のように、学校外では必ず制服着用の規則を記憶する回答が複数見られた。

⑥ 制服のイメージ (表二三～三〇)

この設問では制服のイメージをとらえるために、二つの言葉について次のような五段階で選択してもらった。

- 右の言葉に対してそう思う場合は →
 右の言葉に対してどちらかといえばそう思う場合は 四
 どちらでもない場合は 三
 左の言葉に対してどちらかといえばそう思う場合は 二
 左の言葉に対してそう思う場合は ←

表 23 制服のイメージ やぼったい←→おしゃれ

	1		2		3		4		5	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
～ 1929	0	0.00	0	0.00	1	100.00	0	0.00	0	0.00
1930	0	0.00	1	14.29	5	71.43	1	14.29	0	0.00
1935	3	18.75	1	6.25	7	43.75	3	18.75	2	12.50
1940	1	5.26	1	5.26	9	47.37	8	42.11	0	0.00
1945～	20	25.64	9	11.54	36	46.15	10	12.82	3	3.85
合 計	24	19.83	12	9.92	58	47.93	22	18.18	5	4.13
今治高女	5	38.46	3	23.08	3	23.08	2	15.38	0	0.00
松山高女	8	29.63	4	14.81	12	44.44	2	7.41	1	3.70
城北高女	6	19.35	2	6.45	11	35.48	11	35.48	1	3.23
大洲高女	1	14.29	1	14.29	4	57.14	1	14.29	0	0.00
八幡浜高女	3	18.75	2	12.50	9	56.25	1	6.25	1	6.25
東宇和高女	1	5.00	0	0.00	14	70.00	3	15.00	2	10.00
合 計	24	21.05	12	10.53	53	46.49	20	17.54	5	4.39

表 24 制服のイメージ 地味←→派手

	1		2		3		4		5	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
～ 1929	1	50.00	1	50.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00
1930	1	12.50	3	37.50	3	37.50	1	12.50	0	0.00
1935	5	25.00	5	25.00	8	40.00	1	5.00	1	5.00
1940	1	4.17	6	25.00	15	62.50	2	8.33	0	0.00
1945～	17	22.97	22	29.73	29	39.19	3	4.05	3	4.05
合 計	25	19.53	37	28.90	55	42.97	7	5.47	4	3.13
今治高女	2	18.18	6	54.55	3	27.27	0	0.00	0	0.00
松山高女	6	25.00	9	37.50	7	29.17	1	4.17	1	4.17
城北高女	10	31.25	5	15.63	14	43.75	2	6.25	1	3.13
大洲高女	1	11.11	3	33.33	5	55.56	0	0.00	0	0.00
八幡浜高女	2	10.00	8	40.00	8	40.00	1	5.00	1	5.00
東宇和高女	4	16.67	5	20.83	13	54.17	2	8.33	0	0.00
合 計	25	20.83	36	30.00	50	41.67	6	5.00	3	2.50

表 25 制服のイメージ 恥ずかしい←→誇らしい

	1		2		3		4		5	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
～ 1929	0	0.00	1	33.33	0	0.00	0	0.00	2	66.67
1930	0	0.00	0	0.00	2	22.22	2	22.22	5	55.56
1935	1	5.00	0	0.00	4	20.00	5	25.00	10	50.00
1940	0	0.00	0	0.00	6	20.69	6	20.69	17	58.62
1945～	2	2.74	1	1.37	24	32.88	18	24.66	28	38.36
合 計	3	2.24	2	1.49	36	26.87	31	23.13	62	46.27
今治高女	0	0.00	0	0.00	3	25.00	4	33.33	5	41.67
松山高女	0	0.00	0	0.00	9	32.14	2	7.14	17	60.71
城北高女	0	0.00	0	0.00	9	29.03	8	25.81	14	45.16
大洲高女	0	0.00	1	9.09	3	27.27	2	18.18	5	45.45
八幡浜高女	1	5.56	0	0.00	5	27.78	6	33.33	6	33.33
東宇和高女	2	8.00	1	4.00	7	28.00	6	24.00	9	36.00
合 計	3	2.40	2	1.60	36	28.80	28	22.40	56	44.80

表 26 制服のイメージ 男性的←→女性的

	1		2		3		4		5	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
～1929	0	0.00	0	0.00	1	50.00	0	0.00	1	50.00
1930	0	0.00	0	0.00	3	42.86	3	42.86	1	14.29
1935	0	0.00	0	0.00	4	26.67	5	33.33	6	40.00
1940	0	0.00	0	0.00	6	26.09	11	47.83	6	26.09
1945～	1	1.52	2	3.03	33	50.00	16	24.24	14	21.21
合計	1	0.88	2	1.77	47	41.59	35	30.97	28	24.78
今治高女	0	0.00	1	11.11	6	66.67	1	11.11	1	11.11
松山高女	0	0.00	0	0.00	15	68.18	4	18.18	3	13.64
城北高女	0	0.00	1	3.70	9	33.33	11	40.74	6	22.22
大洲高女	0	0.00	0	0.00	5	50.00	2	20.00	3	30.00
八幡浜高女	0	0.00	0	0.00	6	35.29	7	41.18	4	25.53
東宇和高女	1	5.26	0	0.00	5	26.32	7	36.84	6	31.58
合計	1	0.96	2	1.92	46	44.23	32	30.77	23	22.12

表 27 制服のイメージ 動きにくい←→動きやすい

	1		2		3		4		5	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
～1929	0	0.00	0	0.00	1	33.33	0	0.00	2	66.67
1930	0	0.00	0	0.00	4	44.44	0	0.00	5	55.56
1935	0	0.00	0	0.00	7	43.75	2	12.50	7	43.75
1940	0	0.00	0	0.00	5	22.73	7	31.82	10	45.45
1945～	0	0.00	2	2.78	35	48.61	21	29.17	14	19.44
合計	0	0.00	2	1.64	52	42.62	30	24.59	38	31.15
今治高女	0	0.00	1	10.00	4	40.00	3	30.00	2	20.00
松山高女	0	0.00	0	0.00	13	54.17	5	20.83	6	25.00
城北高女	0	0.00	0	0.00	11	37.93	10	34.48	8	27.59
大洲高女	0	0.00	0	0.00	6	66.67	1	11.11	2	22.22
八幡浜高女	0	0.00	0	0.00	9	56.25	2	12.50	5	31.25
東宇和高女	0	0.00	1	4.17	6	25.00	7	29.17	10	41.67
合計	0	0.00	2	1.79	49	43.75	28	25.00	33	29.46

表 28 制服のイメージ ごわごわ←→肌になじむ

	1		2		3		4		5	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
～1929	0	0.00	0	0.00	1	100.00	0	0.00	0	0.00
1930	0	0.00	1	16.67	3	50.00	2	33.33	0	0.00
1935	0	0.00	1	7.69	7	53.85	4	30.77	1	7.69
1940	0	0.00	0	0.00	5	26.32	13	68.42	1	5.26
1945～	2	2.94	6	8.82	41	60.29	12	17.65	7	10.29
合計	2	1.87	8	7.48	57	53.27	31	28.97	9	8.41
今治高女	1	10.00	2	20.00	6	60.00	1	10.00	0	0.00
松山高女	0	0.00	2	9.52	11	52.38	7	33.33	1	4.76
城北高女	1	3.57	1	3.57	14	50.00	10	35.71	2	7.14
大洲高女	0	0.00	0	0.00	5	83.33	1	16.67	0	0.00
八幡浜高女	0	0.00	1	6.25	10	62.50	3	18.75	2	12.50
東宇和高女	0	0.00	2	10.53	8	42.11	7	36.84	2	10.53
合計	2	2.00	8	8.00	54	54.00	29	29.00	7	7.00

表 29 制服のイメージ ぶかぶか←→ぴったり

	1		2		3		4		5	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
～1929	0	0.00	0	0.00	1	100.00	0	0.00	0	0.00
1930	1	16.67	1	16.67	2	33.33	2	33.33	0	0.00
1935	0	0.00	1	6.67	7	46.67	5	33.33	2	13.33
1940	0	0.00	3	16.67	9	50.00	6	33.33	0	0.00
1945～	2	2.94	9	13.24	43	63.24	8	11.76	6	8.82
合計	3	2.78	14	12.96	62	57.41	21	19.44	8	7.41
今治高女	2	18.18	1	9.09	8	72.73	0	0.00	0	0.00
松山高女	0	0.00	6	28.57	12	57.14	3	14.29	0	0.00
城北高女	0	0.00	5	17.86	16	57.14	6	21.43	1	3.57
大洲高女	0	0.00	0	0.00	4	66.67	2	33.33	0	0.00
八幡浜高女	1	6.25	1	6.25	8	50.00	4	25.00	2	12.50
東宇和高女	0	0.00	1	5.26	12	63.16	3	15.79	3	15.79
合計	3	2.97	14	13.86	60	59.41	18	17.82	6	5.94

表 30 制服のイメージ 嫌い←→好き

	1		2		3		4		5	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
～1929	0	0.00	1	33.33	0	0.00	0	0.00	2	66.67
1930	0	0.00	0	0.00	2	18.18	2	18.18	7	63.64
1935	0	0.00	1	6.25	3	18.75	6	37.50	6	37.50
1940	0	0.00	0	0.00	3	10.00	9	30.00	18	60.00
1945～	7	9.46	9	12.16	28	37.84	12	16.22	18	24.32
合計	7	5.22	11	8.21	36	26.87	29	21.64	51	38.06
今治高女	1	9.09	5	45.45	4	36.36	0	0.00	1	9.09
松山高女	2	6.67	2	6.67	5	16.67	4	13.33	17	56.67
城北高女	3	9.09	2	6.06	8	24.24	8	24.24	12	36.36
大洲高女	0	0.00	1	10.00	4	40.00	1	10.00	4	40.00
八幡浜高女	1	5.56	1	5.56	6	33.33	4	22.22	6	33.33
東宇和高女	0	0.00	0	0.00	9	39.13	7	30.43	7	30.43
合計	7	5.60	11	8.80	36	28.80	24	19.20	47	37.60

まず制服は女学生にとって「やぼったい」か「おしゃれ」かのイメージについては「どちらでもない」が四八%と多く、制服に対しては次のようなコメントも見られる。「制服はやぼったいけれど私達にとっては誇りでありました」（八幡浜高女 昭和一七年卒）

ところが、一九四一（昭和一六）年四月より全国統一の女学生制服が実施される。⁽²⁹⁾これ以降入学した生徒からは「昭和一八年ごろからセーラー服からへちま襟に変わった時はやぼったくでいやであった」（東宇和高女 昭和二〇年卒）、「戦時中は国民服といって各女学校共通の服しか着れず城北の制服（モダンでした）に憧れて入学したのに残念でした。」（城北高女 昭和二一年卒）といった回答のように統一制服への不満と従来の制服への愛着が見られる。へちま襟の制服はその形状とともに「各高女統一」といった「制服」らしからぬ点が高女生の不満の理由となった。それまでは制服によつてどこの高女かが一目瞭然であり、差異化されていた。その制服が他校と同一になったことは、当事者である高女生にとっては、

「戦中は全国同じになりましたが敢えて姉からの物として古いベルトのある制服にしました。他校と同じ制服にとても抵抗感がありました。」（松山高女 昭和二三年卒）

といった証言のように衝撃的であり反発を抱くものであった。

次に「地味」「派手」のイメージは「どちらでもない」が四三%、「どちらかといえば」も含めた場合「地味」が四八%ととなっている。洋服でも制服の場合ほむし

る地味だと着用者は捉えていたようである。

三問目は「恥かしい」と「誇らしい」という言葉についてのイメージである。一九二〇年代、洋装者は少なかったことから、洋装女性は「真面目でない」「ハイカラな印象を持たれ、ひんしゆくをかうこともあった。しかし、制服の場合、「〇〇高女である」という誇りを持つて身につけたことから、「どちらかといえば」も含めると六九%の高女生が「誇らしい」と答えている。

また四問目では「男性的」か「女性的」かのイメージを尋ねている。同じく一九二〇年代、「洋服を着ていると、世間ではすぐお転婆と決めてかかりますから…」といった世間のイメージがあった。松山高女でも、洋装制服導入時に和洋装が選択制の時期があり、大正一五年卒の女性が「どちらかといえばお転婆の人が洋服を着て」いたという印象を語っている。

今回のアンケートでは「どちらかといえば」も含めると、女学生自身の五六%が「女性的だ」と制服を考えている結果となった。「セーラー服に黒い靴下、皮靴、誇らしげなお姉様方を羨望の目で見ていました」(宇和島高女昭和一七年卒³³)という証言にあるように、高女入学以前から制服に対して年上の女性への憧れを抱く少女もいた。この結果は一九二〇年代の回答数が少ないことと、洋服ではなく制服に関するイメージに関する設問であることが理由として考えられる。

次に洋服の特色である活動性について「動きにくい」か「動きやすい」かを尋ねた。その結果「どちらかといえば」も含めて「動きにくい」と答えた高女生は一%であった。洋装制服の導入理由の一つが活動性であるため、この結果は妥当だと言える。

次の二つの設問は、和服から洋服への移行の際の皮膚感覚を探る試みである。制服について「ごわごわしている」か「肌になじむ」かという設問では、「どちらでもない」が五三%、「どちらかといえば」も含んだ「肌になじむ」は三七%であった。また「ぶかぶかする」か「肌にびったりする」かという設問では「どちらでもない」が五七%、「どちらかといえば」も含んだ「肌にびったりする」は二七%であった。布を身体に沿う形でまとう和服と、身体を形に

合わせる洋服の差異の一つが肌への密着感だといえる。そのフィット感ゆえ洋服の機能が成り立つのである。洋装制服を着た際感覚として「圧迫感」が着用者にあると仮定したが、今回のアンケートではとくにその傾向は見られなかった。³⁴

最後は、制服の好悪についての設問である。「どちらかといえば」を含めると「好き」が六〇%、「どちらでもない」が二七%、「嫌い」が一三%であった。一九四五(昭和二〇)年卒業以降の年代で「嫌い」が目立つのは、一九四一年入学から実施された全国统一制服が理由として大きいと考えられる。

⑦ 洋服との初接触(表三一)

洋装制服によつて洋装の機能性を体感し、洋装化の推進となるには、着用者が洋装と初めて接した時期が重要であると考えた。よつてこの設問では、制服が初めて身につけた洋服であったかを尋ねた。すると一九三五(昭和一〇)年以降の卒業年代は九割以上が「いいえ」と答えており「幼少期から」もしくは「生まれた時から」洋服であったと回答している。洋装制服が洋装化の推進の原動

表 31 制服が初めて着た服

	はい		いいえ	
	実数	%	実数	%
～1929	2	66.67	1	33.33
1930	6	42.86	8	57.14
1935	2	8.00	23	92.00
1940	2	4.65	41	95.35
1945～	4	4.08	94	95.92
合計	16	8.74	167	91.26
今治高女	0	0.00	15	100.00
松山高女	6	14.63	35	85.37
城北高女	3	8.11	34	91.89
大洲高女	2	12.50	14	87.50
八幡浜高女	3	11.54	23	88.46
東宇和高女	2	5.26	36	94.74
合計	16	9.25	157	90.75

* 「わからない」は回答が0

表 32 制服以外の洋服の所有

	有		無		わからない	
	実数	%	実数	%	実数	%
～1929	3	75.00	1	25.00	0	0.00
1930	8	61.54	4	30.77	1	7.69
1935	24	92.31	0	0.00	2	7.69
1940	40	97.56	0	0.00	1	2.44
1945～	95	97.94	1	1.03	1	1.03
合計	170	93.92	6	3.31	5	2.76
今治高女	15	100.00	0	0.00	0	0.00
松山高女	35	87.50	3	7.50	2	5.00
城北高女	35	97.22	1	2.78	0	0.00
大洲高女	16	94.12	1	5.88	0	0.00
八幡浜高女	24	92.31	1	3.85	1	3.85
東宇和高女	36	97.30	0	0.00	1	2.70
合計	161	94.15	6	3.51	4	2.34

力となったか否かは一九三五年以降の卒業者の分析からは結論を出すことが困難だと思われる。⁽³⁵⁾

⑧ 洋服（制服以外）の所有（表三二～三四）
 同じく一九三五年以降に卒業した高女生は、九割以上が制服以外にも洋服を所有していたことを記憶している。この年代では家庭でも洋服に親しんでいたことがわかる。有効回答者全体では、洋服の種類として「ワンピース」・「ブラウス」・「スカート」の三点いずれも九割前後の所有率を示している。これら洋服の入手方法（複数回答）は店で購入が七九%、家族の手による

表 33 所有していた洋服の種類

	スカート		ブラウス		ワンピース		ツーピース		コート		その他	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
～1929	1	33.33	1	33.33	3	100.00	0	0.00	2	66.67	0	0.00
1930	6	75.00	5	62.50	7	87.50	3	37.50	2	25.00	2	25.00
1935	20	83.33	22	91.67	22	91.67	6	25.00	9	37.50	6	25.00
1940	36	90.00	35	87.50	38	95.00	7	17.50	20	50.00	8	20.00
1945～	83	92.22	86	95.56	85	94.44	15	16.67	49	54.44	36	40.00
合計	146	88.48	149	90.30	155	93.93	31	18.79	82	49.70	52	31.52
今治高女	13	92.86	14	100.00	13	92.86	3	21.43	8	57.14	5	35.71
松山高女	28	84.85	28	84.85	30	90.91	8	24.24	17	51.52	14	42.42
城北高女	31	91.18	31	91.18	34	100.00	5	14.71	17	50.00	9	26.47
大洲高女	13	81.25	13	81.25	15	93.75	1	6.25	5	31.25	2	12.50
八幡浜高女	22	91.67	22	91.67	21	87.50	7	29.17	15	62.50	9	37.50
東宇和高女	30	85.71	32	91.43	33	94.29	5	14.29	17	48.57	9	25.71
合計	137	87.82	140	89.74	146	93.59	29	18.59	79	50.64	48	30.77

表 34 洋服の入手方法

	自分で製作		家族が製作		店で購入		その他	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
～1929	1	33.33	1	33.33	2	66.67	0	0.00
1930	2	25.00	2	25.00	8	100.00	1	12.50
1935	1	4.17	14	58.33	21	87.50	5	20.83
1940	4	10.00	21	52.50	36	90.00	5	12.50
1945～	19	20.43	62	66.67	66	70.97	26	27.96
合計	27	29.03	100	59.52	133	79.17	37	22.02
今治高女	4	28.57	7	50.00	10	71.43	2	14.29
松山高女	6	17.65	15	44.12	28	82.35	8	23.53
城北高女	6	17.14	27	77.14	28	80.00	8	22.86
大洲高女	3	18.75	7	43.75	11	68.75	6	37.50
八幡浜高女	4	16.67	13	54.17	21	87.50	5	20.83
東宇和高女	4	11.11	25	69.44	26	72.22	8	22.22
合計	27	16.98	94	59.12	124	77.99	37	23.27

表 35 家の中での服装

	洋 服		和 服		わからない	
	実数	%	実数	%	実数	%
～1929	1	25.00	3	75.00	0	0.00
1930	1	9.09	10	90.91	0	0.00
1935	14	82.35	2	11.76	1	5.88
1940	30	90.91	3	9.09	0	0.00
1945～	91	100.00	0	0.00	0	0.00
合 計	137	87.82	18	11.54	1	0.64
今 治 高 女	14	100.00	0	0.00	0	0.00
松 山 高 女	26	70.27	11	29.73	0	0.00
城 北 高 女	35	100.00	0	0.00	0	0.00
大 洲 高 女	12	80.00	3	20.00	0	0.00
八 幡 浜 高 女	20	90.91	2	9.09	0	0.00
東 宇 和 高 女	23	92.00	2	8.00	0	0.00
合 計	130	87.84	18	12.16	0	0.00

表 36 外出の際の服装

	洋 服		和 服		わからない	
	実数	%	実数	%	実数	%
～1929	0	0.00	3	75.00	1	25.00
1930	1	10.00	9	90.00	0	0.00
1935	16	80.00	3	15.00	1	5.00
1940	31	86.11	3	8.33	2	5.56
1945～	76	97.44	0	0.00	2	2.56
合 計	124	83.78	18	12.16	6	4.05
今 治 高 女	11	100.00	0	0.00	0	0.00
松 山 高 女	23	69.70	10	30.30	0	0.00
城 北 高 女	28	93.33	0	0.00	2	6.67
大 洲 高 女	9	60.00	4	26.67	2	13.33
八 幡 浜 高 女	20	86.96	3	13.04	0	0.00
東 宇 和 高 女	26	92.86	1	3.57	1	3.57
合 計	117	83.57	18	12.86	5	3.57

ものが六〇％である。

四 洋 服

①家の中での服装（表三五）

一九二〇年代、和洋装に関する雑誌記事において、外では洋服、家の中では和服を用いる女性について二重生活の不経済さが話題となることが多くあった。雑誌記事では女学生の二重生活についてももちろん言及されている。

今回のアンケートでは、家では八八％の女学生が洋服を着用していた結果となった。年代ごとでは一九三五（昭和一〇）年を境に和服から洋服へと変化したようにみとれる。例えば昭和五年卒の大洲高女生は、四年生頃から夏にアップパー(6)のようなものを着たと回答し、その理由として「流行しはじめた」

からと述べている。ほかには「普段着の着物なし」（城北高女 昭和二年卒）といった和服の不経済さや「後の手入れが簡単」（松山高女 昭和一八年卒）といった洋服の便利さをあげる回答も見られた。全体の傾向としては、「洋服が働きよいので変えて行く。和服は今まであるのを着る」（大洲高女 昭和七年卒）といった証言のように、現状を踏まえた上で徐々に洋服へと移行したのではないかと思われる。

②外出する際の服装（表三六）

外出する際の服装も、一九三五（昭和一〇）年卒業世代を境に和服から洋服へと変化したようである。和服で外出する理由として、「外出する様な立派な(7)（洋）服がなかった」（大洲高女 昭和七年卒）、「外出は必ず」和服でありそれは「行儀が悪くなる」ため（大洲高女 昭和一〇年卒）といった証言のように、訪問の際に和服を用いてきた習慣や、洋装で訪問する際の礼儀作法の未確

表 37 和装に洋装下着を着用した経験

	有		無		わからない	
	実数	%	実数	%	実数	%
～1929	3	75.00	1	25.00	0	0.00
1930	6	46.15	6	46.15	1	7.69
1935	18	72.00	2	8.00	5	20.00
1940	29	78.38	4	10.81	3	8.11
1945～	44	70.97	13	20.97	5	8.06
合計	100	70.92	27	19.15	14	9.92
今治高女	8	100.00	0	0.00	0	0.00
松山高女	18	62.07	6	20.69	5	17.24
城北高女	18	75.00	4	16.67	2	8.33
大洲高女	8	57.14	3	21.43	3	21.43
八幡浜高女	16	66.67	5	20.83	3	12.50
東宇和高女	25	71.43	9	25.71	1	2.86
合計	93	69.40	27	20.15	14	10.45

立などがあげられる。

反対に、洋服で外出する理由としては、「一人で着ることが出来る」(東宇和高女 昭和一九年卒)、「自転車にのりやすいので」(東宇和高女 昭和二一年卒)といった洋服の簡便性や活動性があげられている。その他には「洋服の生活に慣れていだから」(東雲高女 昭和二〇年卒)という証言のように「時代が洋服になりつつあったのでは？」(西条高女 昭和二〇年卒)ないかと思われる。

③和装の際、洋装下着の使用(表三七・三八)

この設問では、和装の際に洋装下着着用経験について尋ねている。和服の下着として洋装下着を用いることは現代におい

表 38 洋装下着の種類

	ブラジャー		ウエスト		スリッパ		シュミーズ		コンビネーション		ブルマース	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
～1929	0	0.00	0	0.00	0	0.00	2	66.67	0	0.00	0	0.00
1930	0	0.00	1	16.67	0	0.00	2	33.33	0	0.00	1	16.67
1935	2	11.11	3	16.67	6	33.33	10	55.56	0	0.00	1	5.56
1940	1	3.45	0	0.00	5	17.24	22	75.86	0	0.00	1	3.45
1945～	3	6.82	0	0.00	11	25.00	29	65.91	1	2.27	2	4.55
合計	6	6.00	4	4.00	22	22.00	65	65.00	1	1.00	5	5.00
今治高女	1	12.50	0	0.00	1	12.50	7	87.50	0	0.00	0	0.00
松山高女	2	11.11	1	5.56	2	11.11	9	50.00	1	5.56	3	16.67
城北高女	1	5.56	0	0.00	4	22.22	10	55.56	0	0.00	0	0.00
大洲高女	0	0.00	0	0.00	0	0.00	6	75.00	0	0.00	0	0.00
八幡浜高女	0	0.00	0	0.00	4	25.00	12	75.00	0	0.00	0	0.00
東宇和高女	0	0.00	2	8.00	9	36.00	18	72.00	0	0.00	1	4.00
合計	4	4.30	3	3.23	20	21.51	62	66.67	1	1.08	4	4.30

	ブローズ		ガードル		ストッキング		ガーター		その他	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
～1929	3	100.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00
1930	6	100.00	0	0.00	1	16.67	0	0.00	2	33.33
1935	17	94.44	0	0.00	3	16.67	0	0.00	0	0.00
1940	23	79.31	0	0.00	0	0.00	1	3.45	2	6.90
1945～	42	95.45	1	2.27	2	4.55	0	0.00	2	4.55
合計	91	91.00	1	1.00	6	6.00	1	1.00	6	6.00
今治高女	8	100.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00
松山高女	15	83.33	0	0.00	3	16.67	0	0.00	2	11.11
城北高女	16	88.89	1	5.56	0	0.00	0	0.00	1	5.56
大洲高女	8	100.00	0	0.00	1	12.50	1	12.50	1	12.50
八幡浜高女	14	87.50	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00
東宇和高女	23	92.00	0	0.00	2	8.00	0	0.00	2	8.00
合計	84	90.32	1	1.08	6	6.45	1	1.08	6	6.45

ては奇妙にも思えるが、洋装下着は導入時、和装下着の欠点を補う役目も託されており、その後の雑誌記事にも、着装を推奨する記事が見られる。

「女学校を卒へたばかりのお嬢様方は、和服を着慣れないので、非常に億劫にお思ひのやうですが、洋服の乳押しへや、コンビネーションを、そのままで体の形をとり、その上に肌着（晒木綿）と長襦袢を着て、着附の土台を作ればもう容易です。」

この記事で注目すべきは、女学生には洋装及び洋装下着が身近であり、卒業後の女学生は和服に不慣れであるという説明である。今回のアンケートでは、年代を通じて回答者の七一%が和装の際に洋装下着を用いた経験を記憶している。用いた下着類として九一%が「ズロース」、六五%が「シュミーズ」を記憶しており、高い普及率を示している。腰巻や肌襦袢を用いる従来の着装法が変化していった理由として、「汗とりのため」（東宇和高女 昭和二年卒）といった「身だしなみ」（松山高女 昭和七年卒）への配慮のほかに、「つけ慣れている為」（八幡浜高女 昭和三年卒）、「そういうものだと思っていた」（松山高女 昭和二年卒）と自然と洋装下着に親しんできた時代の流れによる理由も散見できる。

④ 洋装のイメージ（表三九〜四六）

前述の、制服のイメージに関する設問と同じく、この設問は洋装のイメージについて探るものである。まず洋服は「やぼったい」か「おしゃれ」かというイメージについては「どちらかといえば」も含めると六六%が「おしゃれ」と感じており、「どちらでもない」が三二%となった。同じ洋装でも制服では「どちらでもない」が大半を占めたことを考えると、いわゆる私服としての洋服は流行などを考慮して購入されたようである。

また「地味」か「派手」かという設問では「どちらでもない」が五八%と半数を占め、「地味」は一六%、「派手」は二六%となっている。一九二〇年代の婦人雑誌によると「洋服は派手なもの」という世間のイメージがあったが、これは「洋服を着る」こと自体が珍しく「派手」と捉えられていた洋装導入初期

表 39 洋服のイメージ やぼったい←→おしゃれ

	1		2		3		4		5	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
～ 1929	0	0.00	0	0.00	0	0.00	1	33.33	2	66.67
1930	1	16.67	0	0.00	4	66.67	0	0.00	1	16.67
1935	1	5.00	0	0.00	5	25.00	4	20.00	10	50.00
1940	0	0.00	0	0.00	10	40.00	4	16.00	11	44.00
1945～	1	1.35	0	0.00	22	29.73	27	36.49	24	32.43
合計	3	2.34	0	0.00	41	32.03	36	28.13	48	37.50
今治高女	0	0.00	0	0.00	1	11.11	4	44.44	4	44.44
松山高女	0	0.00	0	0.00	6	26.09	5	21.74	12	52.17
城北高女	0	0.00	0	0.00	12	36.36	8	24.24	13	39.39
大洲高女	0	0.00	0	0.00	5	50.00	3	30.00	2	20.00
八幡浜高女	2	11.11	0	0.00	3	16.67	8	44.44	5	27.78
東宇和高女	1	3.70	0	0.00	11	40.74	5	18.52	10	37.04
合計	3	2.50	0	0.00	38	31.67	33	27.50	46	38.33

表 40 洋服のイメージ 地味←→派手

	1		2		3		4		5	
	実数	%								
～1929	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	1	100.00
1930	2	25.00	1	12.50	4	50.00	1	12.50	0	0.00
1935	1	6.25	1	6.25	9	56.25	3	18.75	2	12.60
1940	0	0.00	1	4.55	13	59.09	5	22.73	3	13.64
1945～	2	3.08	10	15.38	39	60.00	9	13.85	5	76.92
合計	5	4.46	13	11.61	65	58.04	18	16.07	11	9.82
今治高女	0	0.00	1	12.50	7	87.50	0	0.00	0	0.00
松山高女	0	0.00	4	17.39	11	47.83	5	21.74	3	13.04
城北高女	0	0.00	5	16.67	14	46.67	6	20.00	5	16.67
大洲高女	1	12.50	0	0.00	4	50.00	2	25.00	1	12.50
八幡浜高女	3	20.00	1	6.67	10	66.67	0	0.00	1	6.67
東宇和高女	1	4.76	2	9.52	14	66.67	4	19.05	0	1.00
合計	5	4.76	13	12.38	60	57.14	17	16.19	10	9.52

表 41 洋服のイメージ 恥かしい←→誇らしい

	1		2		3		4		5	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
～1929	0	0.00	0	0.00	1	33.33	0	0.00	2	66.67
1930	0	0.00	0	0.00	3	37.50	1	12.50	4	50.00
1935	0	0.00	0	0.00	8	44.44	3	16.67	6	33.33
1940	0	0.00	0	0.00	12	60.00	1	5.00	7	35.00
1945～	0	0.00	1	1.54	41	63.08	16	24.62	7	10.77
合計	0	0.00	1	0.88	66	57.89	21	18.42	26	22.81
今治高女	0	0.00	0	0.00	4	50.00	3	37.50	1	12.50
松山高女	0	0.00	0	0.00	13	52.00	4	16.00	8	32.00
城北高女	0	0.00	0	0.00	17	60.71	6	21.43	5	17.86
大洲高女	0	0.00	0	0.00	6	75.00	1	12.50	1	12.50
八幡浜高女	0	0.00	0	0.00	7	50.00	5	35.71	2	14.29
東宇和高女	0	0.00	1	4.17	15	62.50	1	4.17	7	29.17
合計	0	0.00	1	0.93	62	57.94	20	18.69	24	22.43

表 42 洋服のイメージ 男性的←→女性的

	1		2		3		4		5	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
～1929	0	0.00	0	0.00	1	50.00	0	0.00	1	50.00
1930	0	0.00	0	0.00	2	28.57	4	57.14	1	14.29
1935	0	0.00	0	0.00	8	50.00	6	37.50	2	12.50
1940	0	0.00	0	0.00	7	30.43	8	34.78	8	34.78
1945～	0	0.00	1	15.63	29	45.31	23	35.94	11	17.19
合計	0	0.00	1	8.90	47	41.96	41	36.61	23	20.54
今治高女	0	0.00	0	0.00	4	50.00	4	50.00	0	0.00
松山高女	0	0.00	0	0.00	10	41.67	8	33.33	6	25.00
城北高女	0	0.00	1	3.57	11	39.29	11	39.29	5	17.86
大洲高女	0	0.00	0	0.00	6	75.00	1	12.50	1	12.50
八幡浜高女	0	0.00	0	0.00	4	25.00	6	37.50	6	37.50
東宇和高女	0	0.00	0	0.00	11	52.38	7	33.33	3	14.29
合計	0	0.00	1	0.95	46	43.81	37	35.24	21	20.00

表 43 洋服のイメージ 動きにくい←→動きやすい

	1		2		3		4		5	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
～1929	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	3	100.00
1930	0	0.00	0	0.00	1	10.00	2	20.00	7	70.00
1935	0	0.00	0	0.00	2	8.70	4	17.39	17	73.91
1940	0	0.00	0	0.00	5	14.71	6	17.65	23	67.65
1945～	0	0.00	1	1.32	4	5.26	16	21.05	55	72.37
合計	0	0.00	1	0.68	12	8.22	28	19.18	105	71.92
今治高女	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	10	100.00
松山高女	0	0.00	0	0.00	2	6.67	8	26.67	20	66.67
城北高女	0	0.00	1	3.13	1	3.13	6	18.75	24	75.00
大洲高女	0	0.00	0	0.00	3	23.08	2	15.38	8	61.54
八幡浜高女	0	0.00	0	0.00	3	13.04	2	8.70	18	78.26
東宇和高女	0	0.00	0	0.00	3	10.34	7	24.14	19	65.52
合計	0	0.00	1	0.73	12	8.76	25	18.25	99	72.26

表 44 洋服のイメージ ごわごわ←→肌になじむ

	1		2		3		4		5	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
～1929	0	0.00	0	0.00	0	0.00	1	50.00	1	50.00
1930	0	0.00	1	14.29	2	28.57	3	42.86	1	14.29
1935	0	0.00	1	5.88	7	41.18	3	17.65	6	35.29
1940	0	0.00	1	3.85	5	19.23	7	26.92	13	50.00
1945～	0	0.00	4	5.97	14	20.90	20	29.86	29	43.28
合計	0	0.00	7	5.88	28	23.53	34	28.57	50	42.02
今治高女	0	0.00	0	0.00	1	12.50	2	25.00	5	62.50
松山高女	0	0.00	2	8.00	4	16.00	10	40.00	9	36.00
城北高女	0	0.00	2	7.14	7	25.00	6	21.43	13	46.43
大洲高女	0	0.00	0	0.00	3	42.86	3	42.86	1	14.29
八幡浜高女	0	0.00	3	16.67	4	22.22	3	16.67	8	44.44
東宇和高女	0	0.00	0	0.00	8	32.00	6	24.00	11	44.00
合計	0	0.00	7	6.31	27	24.32	30	27.03	47	42.34

表 45 洋服のイメージ ぶかぶか←→肌にぴったり

	1		2		3		4		5	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
～1929	0	0.00	1	100.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00
1930	2	25.00	0	0.00	2	25.00	3	37.50	1	12.50
1935	0	0.00	0	0.00	6	37.50	9	56.25	1	6.25
1940	0	0.00	0	0.00	9	40.91	6	27.27	7	31.82
1945～	0	0.00	2	2.99	29	43.28	19	28.36	17	25.37
合計	2	1.75	3	2.63	46	40.35	37	32.46	26	22.81
今治高女	0	0.00	0	0.00	3	37.50	3	37.50	2	25.00
松山高女	1	4.17	0	0.00	8	33.33	9	37.50	6	25.00
城北高女	0	0.00	1	3.57	12	42.86	9	32.14	6	21.43
大洲高女	0	0.00	1	14.29	3	42.86	2	28.57	1	14.29
八幡浜高女	1	5.88	1	5.88	5	29.41	6	35.29	4	23.53
東宇和高女	0	0.00	0	0.00	11	50.00	7	31.82	4	18.18
合計	2	1.89	3	2.83	42	39.62	36	33.96	23	21.70

表 46 洋服のイメージ 嫌い←→好き

	1		2		3		4		5	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
～ 1929	0	0.00	0	0.00	0	0.00	1	33.33	2	66.67
1930	0	0.00	0	0.00	2	20.00	3	30.00	5	50.00
1935	0	0.00	0	0.00	4	19.05	6	28.57	11	52.38
1940	0	0.00	1	3.13	5	15.63	5	15.63	21	65.63
1945～	1	1.39	3	41.67	11	15.28	21	29.17	36	50.00
合計	1	0.72	4	2.90	22	15.94	36	26.09	75	54.35
今治高女	0	0.00	0	0.00	0	0.00	2	25.00	6	75.00
松山高女	0	0.00	1	3.33	2	6.67	9	30.00	18	60.00
城北高女	0	0.00	3	9.38	5	15.63	7	21.88	17	53.13
大洲高女	0	0.00	0	0.00	3	25.00	4	33.33	5	41.67
八幡浜高女	0	0.00	0	0.00	6	30.00	2	10.00	12	60.00
東宇和高女	1	3.70	0	0.00	4	14.81	8	29.63	14	51.85
合計	1	0.78	4	3.10	20	15.50	32	24.81	72	55.81

の現象であり、その後「派手な洋服」と「地味な洋服」とを選択できるほど多様な洋服が出現したことを裏付けていると思われる。

次に洋服を身につけることよって「誇らしい」と感じるのは「どちらかといえば」も含めると四一%、「どちらでもない」が五八%となっている。私服である洋服は、高女への帰属を示す制服ほどは自尊心を満足させるものではなかった。つまり洋服制服の魅力は「洋装」であることよりも「制服」であることが強かったと指摘できる。また、洋装が「女性的」だと感じたのは五七%、「どちらでもない」が四二%となっている。「我家では娘の兄たちが反対の急先鋒です。女は女らしくあれ、女まで髪を切った

り、腕をまくり上げたやうな洋服を着て、男と闊歩するやうでは、世の中は暗澹たるものだと言つてます。」⁽⁴⁰⁾といった雑誌記事に見られるように洋装導入初期は「洋装はお転婆」というイメージが世間では流布していた。今回のアンケート結果によると、次第に薄まりつつあったといえる。

運動性については、「どちらかといえば」も含めると「動きやすい」が九一%となり、洋装制服の同イメージ、五六%よりもかなり高い結果を示した。皮膚感覚については「どちらかといえば」も含め「肌になじむ」と答えたのが七一%、また「肌にぴったり」と答えたのが「どちらかといえば」も含めて五五%といずれも制服の同イメージよりも高い確率を示した。画一的な制服にくらべて、個々の要望に応じて入手した洋服の方が活動性にすぐれ、フィット感が増すことを考えるとこの結果は当然ともいえる。

最後に洋服が「好き」と答えたのは「どちらかといえば」も含めて八〇%となった。今までの回答を考慮するとこの「好き」は高嶺の花としての憧れの気持ちよりも、より身近な衣服である「洋服」への親近感と捉えられる。

五 卒業後の生活

① 卒業後の生活 (複数回答) (表四七・四八)

卒業後から現在までの生活についての設問では、「進学」が三四%、「就職」が五四%、「結婚」が八六%といった結果となっている。

また、結婚した場合、配偶者について職業を聞いたところ、「自営業」が三二%、「公務員」が二二%、「教員」が二一%という結果となった。

② 卒業後の服装 (表四九)

最後に、高女卒業後の服装について、五八%が「洋服」、三五%が「和服と洋服の併用」、七%が「和服」との回答が得られた。併用の実態としては「日

表 47 卒業後の進路

	家事手伝い		家業手伝い		進 学		就 職		結 婚		その他	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
～ 1929	3	60.00	1	20.00	1	20.00	1	20.00	5	100.00	0	0.00
1930	7	50.00	1	7.14	5	35.71	7	50.00	13	92.76	0	0.00
1935	11	40.74	0	0.00	12	44.44	11	40.74	23	85.19	0	0.00
1940	10	22.73	3	6.82	19	43.18	23	52.27	43	97.73	0	0.00
1945～	36	35.64	7	6.93	27	26.73	60	59.40	80	79.21	2	1.98
合 計	67	36.26	12	6.32	64	33.68	102	53.68	164	86.31	2	1.05
今 治 高 女	6	40.00	0	0.00	1	6.67	8	53.33	13	86.67	0	0.00
松 山 高 女	11	25.58	3	6.98	9	20.93	18	41.86	35	81.40	1	2.33
城 北 高 女	4	11.43	2	5.41	14	40.00	27	72.97	32	86.49	0	0.00
大 洲 高 女	2	11.11	2	11.11	3	16.67	11	61.11	17	94.44	0	0.00
八 幡 浜 高 女	4	15.38	1	3.70	5	19.23	13	48.15	23	85.19	0	0.00
東 宇 和 高 女	2	5.00	4	10.00	6	15.00	18	45.00	36	90.00	1	2.50
合 計	29	16.38	12	6.67	38	22.03	95	52.78	156	86.67	2	1.11

表 48 配偶者の職業

	自営業		教 員		公 務 員		農 業		製 造 業		その他	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
～ 1929	3	60.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	2	40.00
1930	5	35.71	3	21.43	2	14.29	0	0.00	0	0.00	4	28.57
1935	4	14.81	6	22.22	7	25.93	1	3.70	1	3.70	6	22.22
1940	6	13.64	11	25.00	12	27.27	5	11.36	1	2.27	9	20.45
1945～	13	13.40	19	19.59	21	21.64	6	6.19	3	3.09	16	16.49
合 計	31	31.96	39	20.86	42	22.46	12	6.42	5	2.67	37	38.14
今 治 高 女	6	40.00	2	13.33	1	6.67	1	6.67	1	6.67	2	13.33
松 山 高 女	11	25.58	5	11.63	9	20.93	0	0.00	1	2.33	11	25.58
城 北 高 女	4	11.43	6	17.14	14	40.00	0	0.00	0	0.00	8	22.86
大 洲 高 女	2	11.11	8	44.44	3	16.67	0	0.00	0	0.00	4	22.22
八 幡 浜 高 女	4	15.38	3	11.54	5	19.23	1	3.85	3	11.54	7	26.92
東 宇 和 高 女	2	5.00	14	35.00	6	15.00	10	25.00	0	0.00	4	10.00
合 計	29	16.38	38	21.47	38	21.47	12	6.78	5	2.82	36	20.34

表 49 卒業後の服装

	和 服		洋 服		和服と洋服	
	実数	%	実数	%	実数	%
～ 1929	4	80.00	0	0.00	1	20.00
1930	4	28.57	4	28.57	6	42.86
1935	5	18.52	12	44.44	10	37.04
1940	0	0.00	17	40.48	25	59.52
1945～	1	1.00	76	76.00	23	23.00
合 計	14	7.45	109	57.98	65	34.57
今 治 高 女	0	0.00	10	71.43	4	28.57
松 山 高 女	7	16.28	22	51.16	14	32.56
城 北 高 女	0	0.00	31	83.78	6	16.22
大 洲 高 女	5	27.78	8	44.44	5	27.78
八 幡 浜 高 女	1	3.70	14	51.85	12	44.44
東 宇 和 高 女	0	0.00	18	46.15	21	53.85
合 計	13	7.30	103	57.87	62	34.83

* 「覚えていない」の回答は 0

日常生活は洋服、茶花琴の稽古には和服、冬は和服が暖かいから」（城北高女 昭和十九年卒）といった様子である。

しかし、この結果から「卒業後に洋服を選択する割合が多いのは、洋装制服や洋裁などの高女生活が洋装化を推進したことによる」と断定することは危険である。なぜなら三〇⑦の結果の通り、一九三五年以降の卒業生は、高女入学以前から洋服を着ていた傾向が強いからである。

そこで一九三四年以前の卒業生に限定すると、卒業後の服装として「洋服」が二一%、「和洋服併用」

が三七%、「和服」が四二%と回答されている。一九三四年以前の卒業生のうち、四七%が高女入学まで和服のみを着用していた(表三二)結果を鑑みると、高女時代に洋装制服を着用するも、卒業後は和服へと回帰する層も多く見られた。活動的で便利な洋装に親しみながら、和装に回帰したその理由は、今後和洋服の着心地についての自由記述を含めて詳細に分析したいと考えている。

六 まとめにかえて

今回のアンケート調査から、洋装制服を中心とした高女生活や服装の実態を垣間見ることができた。その実態は「愛媛県的高等女学校の縮図」とはなりえなかったが、それでもいくつかの傾向が浮きぼりとなった。

まず、洋装制服による洋装化の影響に関しては、時代による慎重な分析が今後必要なが判明した。洋装制服以前には洋服になじみのなかった層が、卒業後に揃って洋装へ移行するという変化は数字の上でははつきりあらわれなかったものの、自由記述を見ると好意的に洋装が受け止められたことがわかる。「二年生の時に洋装に成って皆で大喜びした事を良く覚えています。身軽くなって作業もすべてが楽しく成ったことを覚えております。」(大洲高女 昭和二年卒)

この証言のように、洋装の活動性は新鮮な驚きをもって当時の女学生に受け止められており、洋装制服は、メンタリテイの部分で洋装推進化の一要因となっていた。

また、一九三五年卒業年代を境に、和装から洋装へとシフトする流れの存在が今回の調査からうかがい知れる。今回のアンケートでは、「洋服を初めて着た年」についての設問をはじめとした自由記述の回答も得ているため、今後、自由記述による回答の分析を行い、和装から洋装への変化の実態および変化にともなう身体観の揺れについて明らかにしたい。

今回のアンケートにご協力下さった卒業生の方々、及び関係高等学校関係者の方々に心よりお礼申しあげます。また、アンケート作成および実施に関しましては左記の方々に大変お世話になりました。記して深謝申しあげます。

(五十音順・敬称略)

今泉昌博、今田絵里香、小池ミチ子、小山静子、敷村サガノ、関口美緒、中村万里子、永井紀之、西村浩子、二宮小百合

註

- (1) 大正期の生活改善運動とは、衣食住の日常生活の改善を目指す運動であり一九二〇(大正九)年一月二五日、文部省が中心となって生活改善同盟会が結成された。一九二四(大正一三)年に発行された『生活改善の栞』(生活改善同盟会編)には、生活改善同盟会が提案した改善項目がまとめられており、衣服に関して、和服の改善及び洋服の着用が推奨されている。
- (2) 代表的なものとして、村上淳子、「都市生活における婦人の洋装―『主婦の友』にみる衣生活の変化―」、『風俗』、日本風俗史学会、一九九四(平成六)年、一六〇―二七頁などがある。
- (3) 佐藤秀雄編『日本の教育課題(第二巻 服装・頭髮と学校)』、東京法令出版、一九九七(平成九)年、三四〇頁(川添登也編『服装研究 今和次郎集第八集』、ドメス出版、一九七二(昭和四七)年、二〇三―二一〇頁より採録)。
- (4) アンケートの作成・実施に関しては、以下の論文を参考にした。山本禮子「福田須美子、高等女学校の研究(第二報)―高女卒業生のアンケート調査から―」、『和洋女子大学紀要第二七集』、一九八七(昭和六二)年、一〇七―一三四頁。今回のアンケート作成時はこの論文と同じ問いを設けることにより、全国的な高女生の実態との比較を考えていた。実際には、アンケートの実施方法が異なることから単純な比較は困難であるが、愛媛県という一地方の高女生の実態について幅広いデータを得ることとなった。
- (5) 『愛媛県統計書(学事編)』、昭和九年度、四六頁。
- (6) 沿革史に関してはアンケート実施校以外も資料として用いた。
- (7) 『愛媛県教育史』第二巻、愛媛県教育委員会、一九七二(昭和四六)年、一六八頁。
- (8) 前掲『愛媛県教育史』第二巻、一七五頁および四三二頁の表より作成。
- (9) 愛媛県立松山高等学校百周年記念校史編集委員会、『百年のあゆみ』、松山南高等学校、一九九一(平成三)年、一九〇頁。
- (10) 一九三二(昭和七)年、高等女学校令により高等女学校として文部省より認可され、校

- 名を「私立松山女学校」から「松山東雲高等女学校」と改称する。
- (11) 今治北高等学校学校沿革史編纂委員会、『創立七十五周年記念 愛媛県立今治北高等学校沿革史』、今治北高等学校、一九七三(昭和四八)年、二九七頁。
- (12) 主要な編著書として『愛媛県周桑郡丹原町地方言語集』一九三〇(昭和五)年、『愛媛県周桑郡町村郷土誌所載方言集』一九三二(昭和六)年などがあげられる。
- (13) この問題を含め、いくつかの自由記述形式の設問においては例文を記した。このことによつて、その例文に影響・誘導された回答が若干見られる可能性は否めないが、同時に例文によつて当時の記憶を呼びさます効果も見られた。
- (14) 高等女学校研究会、『高等女学校の研究』、大空社、一九九〇(平成二)年、三五頁。
- (15) 前掲『高等女学校の研究』、四二頁。
- (16) 前掲『高等女学校の研究』資料一、一八頁。
- (17) 望月彰、『女学校における服装の変化と体育』、『新潟大学教養部研究紀要 第七集』、新潟大学教養部、一九七七(昭和五二)年、四五〜五二頁。
- (18) 横田尚美、『一九二〇年代の日本女性洋装下着』、『DRESSSTUDY vol.33』、京都服飾文化研究財団、一九九八(平成一〇)年、一六〜二二頁。
- (19) 佐藤秀雄編前掲書、『日本の教育課題 第二巻 服装・頭髮と学校』、三〇五頁、(山口県立長府高等学校六十年史編纂委員会編、『長府高等学校六十年史』、山口県立長府高等学校、一九七二(昭和四七)年、九八〜一〇三頁より採録)。
- (20) 西条高校七十周年記念誌編纂委員会、『西条高校七十周年記念誌』、西条高校七十周年記念事業推進委員会、一九六八(昭和四三)年、二二五頁。
- (21) 創立百周年記念事業期成会刊行物実行委員会、『愛媛県立宇和島南高等学校創立百周年記念誌』、創立百周年記念事業期成会、一九九二(平成一)年、一〇六頁。
- (22) 愛媛県立松山南高等学校創立七十周年記念誌編纂委員、『七十年のあゆみ』、松山南高等学校、一九六一(昭和三六)年、一五二頁。
- (23) 西条高校七十周年記念誌編纂委員会前掲書、『西条高校七十周年記念誌』、二二二頁。
- (24) 佐藤秀雄編前掲書、『日本の教育課題 第二巻 服装・頭髮と学校』、三二三頁、(創立八〇周年記念誌編纂委員会編、『福島県立会津女子高等学校創立八〇周年記念誌』、福島県立会津女子高等学校、一九八八(昭和六三)年、一七〜一八頁より抄録) ちなみに会津高女も、修学旅行先で「黒からす」とはやしたてられたことが発端で新しい制服に改正された。
- (25) 愛媛県立八幡浜高等学校記念誌編纂委員会、『創立百周年記念誌』、愛媛県立八幡浜高等学校、二〇〇一(平成一三)年、二二六頁。
- (26) 例えば、稲垣トニー、『婦人洋服の着け方』、『婦人世界』、一九二四(大正一三)年七月号、二二四〜二五頁や杉野芳子、『洋服のスマートな着附研究会』、『主婦之友』、一九三三(昭和八)年五月号、五九〜七〇頁といった記事などがある。
- (27) 深田和氣子、『この夏から洋服を着る人のために』、『婦人友』、一九三二(昭和六)年六月号、一七九頁。
- (28) 『創立八十周年記念誌』、愛媛県立宇和島南高等学校、一九八〇(昭和五五)年、一三四頁。
- (29) 蓮池義治、『近代教育上よりみた女学生の服装の変遷(四)』、『紀要 第一九号』、神戸学院女子短期大学、一九八六(昭和六一)年、三九〜四〇頁。
- (30) 松平俊子、『仕事着は洋服晴れ着は和服』(『私は日常洋装生活』)、『婦人画報』、一九二六(大正一五)年二月号、六八頁。
- (31) 『女学校卒業後の服装 洋服がよいか和服がよいか』、『婦人友』、一九二九(昭和四)年五月号、四六頁。
- (32) 愛媛県立松山南高等学校創立七十周年記念誌編纂委員前掲書、『七十年のあゆみ』、四三頁。
- (33) 創立百周年記念事業期成会刊行物実行委員会前掲書、『愛媛県立宇和島南高等学校 創立百周年記念誌』、三三八〜三六九頁。
- (34) 今後、洋服の着心地に関する設問の自由記述を踏まえて分析を行う予定である。
- (35) 今後の課題として、自由記述を含めた分析を行い、洋装が普及する年代の確定を試みる予定である。
- (36) 「学校にいる間はたしかに洋服がよいか、卒業したら二重生活は到底許されなから和服にさせたらと思っておりました」(前掲「女学校卒業後の服装 洋服がよいか和服がよいか」、『婦人友』、四九頁)
- (37) 夏に女性が身につけたただだばの「簡単服」。大阪から売りだされ下着などがいらぬ便利さから全国に広まった。
- (38) シュミーズ・ブルマー・スリッパの広告には次のような宣伝文句がみられる。「婦人の洋服には、その下着が完全なものでなくてはなりません。洋服のときばかりではなく、和服の場合にも、風紀と衛生上からぜひこれだけの下着を使用したいものです。」(広告『主婦之友』、一九二五(大正一四)年八月号、三二〇頁)。
- (39) 千葉益子「姿を美しく見せる帯の上手な結び方秘訣」、『主婦之友』、一九三五(昭和一〇)年五月号、四二〜四一九頁。
- (40) 前掲「女学校卒業後の服装 洋服がよいか和服がよいか」、『婦人友』、四七頁。
- (41) もちろん洋装制服導入以前には生徒の抵抗もあった。一九一九(大正八)年卒業の松山高女卒業生は「そのうち洋服と靴になるらしい噂があつて私達はいやがっていました。」と述べている。(愛媛県立松山南高等学校創立七十周年記念誌編纂委員前掲書、『七十年のあゆみ』、松山南高等学校、一二二頁)

付表 アンケート様式

1 〇〇高等女学校入学についてお尋ねします。

1-1 〇〇高等女学校の入学・卒業年度を教えてください。

(大正・昭和 年入学 期生)
大正・昭和 年卒業)

1-2 お生まれになった年(生年月日)をお教えください。

(明治・大正・昭和 年 月 日)

1-3 入学試験の勉強はされましたか?

ア. はい イ. いいえ ウ. わからない

* はいと答えた方にお聞きします。どのように勉強されましたか。

ア. 学校で勉強した イ. 家で勉強した
ウ. その他(具体的に)

1-4 どうして〇〇高等女学校に入学したのですか? (複数回答可)

ア. 進学が当然だったから イ. 反対を押しして
ウ. 親のすすめ エ. 教師のすすめ
オ. 兄弟姉妹のすすめ
カ. その他の理由

(例1 〇〇高女よりも△△高女の方が自由な雰囲気だったので)

(例2 母親も通っていたから親しみがあった)

1-5 入学前の〇〇高等女学校のイメージはどのようなものでしたか?

()

2 学校生活についてお尋ねします。

2-1 家事の授業で洋服を製作しましたか?

ア. はい イ. いいえ ウ. おぼえていない

* はいと答えた方にお聞きします。何を作りましたか? (複数回答可)

ア. ワイシャツ イ. 子供服
ウ. 下着(具体的に) エ. その他()

2-2 国語の授業で重点が置かれたことに○をつけてください。(複数回答可)

ア. 古文 イ. 漢文 ウ. 書き取り エ. 作文
オ. 読書 カ. その他()

* 印象に残っていることは何でしょうか? ()

2-3 方言や言葉遣いの指導に関して印象に残っていることはありませんか?

ア. ある イ. ない

* あると答えた方にお尋ねします。それはどんなことがらですか。できるだけ詳しくお教え下さい。()

2-4 あなたご自身は、授業中または校内で、方言や言葉遣いについて注意されたことがありますか。上記2-3とだぶってもかまいません。

ア. ある イ. あったような気がする ウ. ない エ. 覚えていない

* ある、あったような気がする と答えた方にお尋ねします。

・それはいつごろの記憶ですか。

時期：高等女学校 () 年生のころ
年代：大正・昭和 () 年ごろ

・どんなことを注意されましたか。

例：(学校の中では、方言を使ってはいけません。)

()
()

2-5 高等女学校入学以前には、方言や言葉遣いについて指導を受けたことがありますか?

ア. ある イ. ない

* あると答えた方にお尋ねします。

・それはいつ頃か、また誰からお教えください。

時期：小学校 () 年生ごろ
誰から： ()

*学校の名前をお教えください。

(例：〇〇尋常小学校・〇〇高等小学校・〇〇国民学校等)
()

2-6 高等女学校時代に、言葉遣い以外に「〜をしてはいけない」等、礼儀

作法や生活態度について指導や注意がありましたか。

ア. ある イ. ない

*あると答えた方にお尋ねします。それは、どんな注意でしたか？

(例：映画館に一人で行ってはいけない)

() ()

2-7 印象に残っている先生はどんな先生ですか。それはどうしてですか？

(教科：) の 先生

(理由)

(教科：) の 先生

(理由)

2-8 授業や課外活動など、学校生活の中でスポーツはしましたか？

ア. はい イ. いいえ ウ. わからない

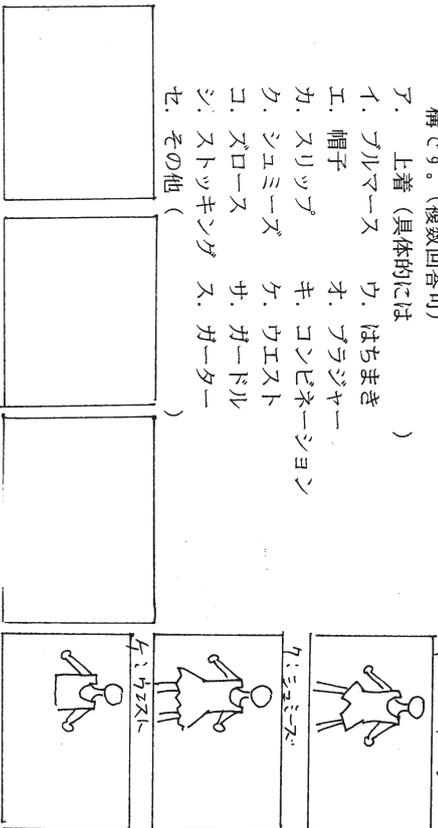
*はいと答えた方にお聞きします。

・何のスポーツをしましたか？(複数回答可)

ア. テニス イ. バレーボール ウ. バスケツトボール エ. 水泳
オ. 野球 カ. 登山 キ. 陸上 ク. ダンス
ケ. その他 ()

・スポーツをする時身につけていた服をお教え下さい。絵でも結構です。(複数回答可)

ア. 上着 (具体的には)
イ. フルーツ ウ. はちまき
エ. 帽子 オ. フラジヤー
カ. スリッパ キ. コンビネーション
ク. シュミーズ ケ. ウエスト
コ. ズロース サ. ガードル
シ. ストッキング ス. ガーター
セ. その他 ()



2-9 修学旅行など、学校の制服で県外に行ったことがありますか？

イ. ある イ. ない ウ. 覚えていない

*あると答えた方にお聞きします。県外に学校で旅行に行った際、制

服のことで何か気がついたことがありますか？

例：場所 (京都) 時期 (三年の秋)

(制服がバスガイドのようだからかわれた。)

例：場所 (高松) 時期 (四年の春)

(制服が垢抜けていると誉められた。)

場所 () 時期 ()

() ()

2-10 〇〇高等女学校の校風やイメージはどのようなものだと思いますか？

() ()

2-11 他の女学校に対してはどのようなイメージを持っていましたか？

例：学校名 (△△高等女学校) イメージ (おとなしい。お嬢さん。)
学校名 () 女学校 イメージ ()
学校名 () 女学校 イメージ ()
学校名 () イメージ ()

3 制服についてお尋ねします。

3-1 当時の制服の色・素材・形などを教えて下さい。絵でも結構です。

(夏服
冬服)

3-2 学校制服の製作者は誰ですか？

ア. 自分自身 イ. 先輩 ウ. 家族 (具体的に)
エ. 洋服店 オ. その他 ()

3-3 制服の製作期間はどのくらいでしたか？

()

3-4 制服の洗濯や手入れはどのようにされていましたか？

()

3-5 制服の下には何を身につけていましたか？絵でも結構です。

(複数回答可)

ア. フラジヤー イ. ウエスト ウ. スリッパ
エ. シュエーズ オ. コンビネーション カ. プルオーバー
キ. スロース ク. ストッキング ケ. ガードル
コ. ガーター サ. その他 ()
* これらの下着はどのようにして手に入れましたか？
ア. 自分で製作 イ. 家族 (具体的には) が製作
ウ. 店で購入 エ. その他 ()

3-6 制服に手を加えましたか？

(例：丈の長さをかえたり、ひだの数をかえる。)
()

3-7 学校で服装検査はありましたか？

ア. ある イ. ない ウ. わからない
* あると答えた方にお聞きします。
・どれくらいの間数でありましたか。(週に 回 月に 回)
・どのような事が違反とされましたか？
()

3-8 洋装制服でのふるまいで、気をつけるよう言われた事はありますか？

ア. ある イ. ない ウ. わからない
* あると答えた方にお聞きします。

・どのようなこと言われましたか？
(例：背筋を伸ばす。首を引く。)

()

・和装ではできなかったのに洋装だと注意されたことはありますか？
(例：内股で歩いてはいけない。)

()

・逆に和装ではできなかったけれど洋装になつてできるようになったことはありますか？
(例：スキップや飛び跳ねたりできるようになった。)

3-9 制服にまつわる小物を、どのように身につけていましたか？絵でも結構です。

例 (校章： 左胸につけていた)

(校章：)

(ベルト：)

(靴：)

(靴下：)

(帽子：)

(髪型：)

(マフラー：)

(手袋：)

(傘 (日傘も含む)：)

(その他：)

3-10 制服を学校以外で着る機会がありましたか？

- ア. ある イ. ない ウ. 覚えていない
 * あると答えた方にお聞きします。それはどのような機会でしたか？
 ()

3-11 制服のイメージはどのようなものでしたか？次の言葉について感じる程度を5段階の数字に丸をつけてお答えください。

	←		→		
やぼったい	1	2	3	4	5
地味	1	2	3	4	5
恥ずかしい	1	2	3	4	5
男性的だ	1	2	3	4	5
動きにくい	1	2	3	4	5
ゴワゴワしている	1	2	3	4	5
ぶかぶかである	1	2	3	4	5
嫌い	1	2	3	4	5
					好き

3-12 制服が、初めて着られた洋装でしたか。

- ア. はい イ. いいえ ウ. わからない
 * いえと答えた方にお聞きします。初めて洋服を着たのはいつ頃ですか？ (才頃 大正・昭和 年頃)

3-13 制服以外に洋服は持っていましたか？

- ア. はい イ. いいえ ウ. わからない
 * はいと答えた方にお聞きします。
 ・何着くらい持っていましたか？ (着)
 ・どのような服でしたか？絵でも結構です。(複数回答可)
 ア. スカーツ イ. ブラウス ウ. ワンピース
 エ. ツーピース オ. コート 他 ()
 ・これらの服は、どのように手に入れましたか？
 ア. 自分で製作 イ. 家族(具体的には)が製作
 ウ. 店で購入 エ. その他 ()

4 洋服についてお尋ねします。

4-1 家の中の服装は和服でしたか洋服(制服以外)でしたか？
 ア. 洋服 イ. 和服 ウ. わからない

(具体的には) 理由: ()

4-2 外出する時の服装は和服でしたか洋服(制服以外)でしたか？

- ア. 洋服 イ. 和服 ウ. わからない
 (具体的には) 理由: ()

4-3 和装の下に洋装下着をつけることはありませんか？

- ア. ある イ. ない ウ. わからない
 * あると答えた方にお聞きします。それはどのような下着ですか？絵でも結構です。(複数回答可)

- ア. ブラジャー イ. ウエスト ウ. スリッパ
 エ. シュミーズ オ. コンビネーション カ. フルブーンス
 キ. スロース ク. ガードル ケ. ストッキング
 コ. ガーター カ. その他 ()

4-4 洋服を着たときの感想や着心地はどのようなものでしたか？次の言葉について感じる程度を5段階の数字に丸をつけてお答えください。

	←		→		
やぼったい	1	2	3	4	5
地味	1	2	3	4	5
恥ずかしい	1	2	3	4	5
男性的だ	1	2	3	4	5
動きにくい	1	2	3	4	5
ゴワゴワしている	1	2	3	4	5
ぶかぶかである	1	2	3	4	5
嫌い	1	2	3	4	5
					好き

*例 和服と比べて (足元や腰のあたり) がスースーする。

- 和服と比べて () がスースーする。
 和服と比べて () が締め付ける。
 和服と比べて () がまとわりつく。
 和服と比べて () が心細い、心もとない。

*例 和服と比べて (脇のあたり) が (窮屈だ) 。

- 和服と比べて () が () 。

その他 (洋服にまつわるエピソードなどありましたらお願いします。)

()

5 卒業後の生活についてお尋ねします。

5-1 卒業後の進路はどうされましたか？ (複数回答可)

ア. 家事手伝い・花嫁修業

イ. 家業手伝い

ウ. 進学 (具体的に

エ. 就職 (具体的に

オ. 結婚

* 差し支えなければ配偶者の方のご職業を教えてください。

A. 自営業 B. 教員 C. 公務員 D. 農業

E. 製造業 F. その他 ()

カ. その他 (具体的に)

5-2 卒業後は主にどのような服装でしたか？

ア. 和服

イ. 洋服

ウ. 和服 割 洋服 割

エ. 覚えていない (理由)

5-3 当時の衣類や在学時代のノート、日記類や写真、教科書、生徒手帳などなんでも結構ですので、何か資料をお持ちの方はお教えください。

()

アンケートにご協力頂き、誠にありがとうございました。

今後、ご連絡をさせていただきたい場合もございますので、よろ

しければ、ご連絡先、お名前をお教えください。

ご住所 〒

お電話番号 ()

お名前

様